

## 和仏法律学校講義録

著者	松室 致, 秋山 雅之介, 勝本 勘三郎
出版者	和佛法律學校
巻	3-24
ページ	1-45
発行年	1900-01-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/4719">http://hdl.handle.net/10114/4719</a>

和佛清學

和佛清學  
講義錄

筆記

每月貳回

目次

刑事訴訟法 (自一頁至二四頁) 法律學士松室致

戰時國際公法 (自二四頁至四二頁) 法律學士秋山雅之介

第貳拾四號

刑法各論 (自四五頁至四七六頁) 法律學士勝本勘三郎



# 三十二年度講義錄完結及 號外ニ付テ

本講義錄、初號以來一回モ期日ヲ過ルコトナクシ  
テ此ニ第廿四號ヲ發行スルニ至リ之ト同時ニ豫定  
期限タル一今年ヲ終了セリ然ルニ浩瀚ナル法學全  
體ノ講義ハ勢ヒ紙數ノ増加ヲ免レス隨テ此際多  
少ノ號外ヲ發スルノ已ムヲ得サルモノアリ仍テ本  
校二月三月ノ兩月ヲ以テ總テノ號外ヲ發行セン  
ト其旨ヲ廣告セシニ一時ニ多クノ紙數アル號外  
ヲ配布セラルルハ攻學上甚タ不便ナルヲ以テ假令  
紙數ニ多少ノ増減アリトスルモ成ルヘク從前ノ例  
ニ依リテ發行アリタシトノ請求校外生諸子ヨリ續  
々アリシヲ以テ本校ハ其請求ヲ至當ト認メ二二三  
四ノ三ヶ月、從前ノ通之ヲ發行シ其餘ハ追テ詳細  
ヲ報道セキニ因リ此際三ヶ月分以上ノ月謝ヲ納  
付スルコトハ(追テ報道スルマテ)之ヲ見合スヘシ

# 三十三年度講義錄ノ 附錄ニ就テ

本校ハ三十三年度ノ講義錄ヲ無事ニ完結スルト同  
時ニ更ニ三十三年度ノ講義錄ヲ發行スルコト別欄  
廣告ノ如シ而シテ當講義錄ノ附錄トシテ掲載スル  
科目ハ其附錄ノミノ購讀ヲ許サスト雖モ三十二年  
度ノ校外生諸子ニ限リ特ニ其各部ニ屬スル附錄ノ  
ミノ購讀ヲ諸シ聊カ以テ其舊誼ニ酬ヒントス即チ  
全部ノ校外生ハ全部又ハ一部ノ附錄ヲ一部ノ校外  
生ハ一部ノミノ附錄ヲ購讀スルコトヲ得二部三部  
亦同シ  
右附錄志望ノ者ハ二月廿八日マテニ申込ムヘシ但  
シ豫約金一圓ヲ要ス

# 編入試験

來ル二月廿一日ヨリ校外生規則第十一條ニ依リ講  
義錄全部ノ修業証ヲ有スル者ニ對シ校内三年級ヘ  
ノ編入試験ヲ行フ志望者ハ試験期日マテニ願書ヲ  
差出スヘシ但シ試験料金一圓ヲ要ス

# 刑事訴訟法

法律學士 松 室 致 講述  
校 友 小田幹治郎 編輯

# 第一編 總論

予カ今ヨリ講セントスル刑事訴訟法ナルモノハ裁判所ノ管轄ノ一部土地ノ管  
轄及ヒ刑事訴訟ノ手續ヲ規定スルモノハ法典ナルカ故ニ予カ講義ノ範圍モ亦之  
ヲ出テサルヘシト雖モ理論上眞ニ刑事訴訟法ノ範圍ニ屬スヘキモノハ獨リ前  
二者ニ止マラサルモノトス即チ裁判所ノ構成裁判所ノ管轄及ヒ純然タル刑事  
訴訟ノ手續是ナリ然ルニ裁判所ノ構成及ヒ裁判所ノ管轄ノ一部事物ノ管轄ハ  
裁判所構成法ニ規定セラレ之ヲ刑事訴訟法ヨリ分離シタルヲ以テ此事項ノ說

090  
1899  
3-1-24

## 刑事訴訟法

法律學士 松室 致 講述  
校 友 小田幹治郎 編輯

### 第一編 總論

予カ今ヨリ講セントスル刑事訴訟法ナルモノハ裁判所ノ管轄ノ一部土地ノ管轄及ヒ刑事訴訟ノ手續ヲ規定スル一ノ法典ナルカ故ニ予カ講義ノ範圍モ亦之ヲ出テサルヘント雖モ理論上眞ニ刑事訴訟法ノ範圍ニ屬スヘキモノハ獨リ前二者ニ止マラサルモノトス即チ裁判所ノ構成裁判所ノ管轄及ヒ純然タル刑事訴訟ノ手續是ナリ然ルニ裁判所ノ構成及ヒ裁判所ノ管轄ノ一部事物ノ管轄ハ裁判所構成法ニ規定セラレ之ヲ刑事訴訟法ヨリ分離シタルヲ以テ此事項ノ説



明ハ同法ノ講義ニ讓ルヲ相當トス然ルニ本校授業科目ヲ見ルニ裁判所構成法ハ其科目中ニ在ラサルナリ故ニ裁判所ノ構成及ヒ裁判所ノ管轄ノ一部ヲモ併セテ講述セサルヲ得サルナリ然レトモ其詳細ノ講義ハ到底時間ノ許サハル所ナルヲ以テ裁判所ノ構成ハ唯其大體ヲ説明シ諸君ヲ以テ其概要ヲ知了セシムルニ止メントス

先ツ裁判所ノ構成ニ付テハ我裁判所構成法ハ左ノ四箇ノ主義ヲ採用セルコトヲ知ラサル可カラス(第一)民刑一致主義民刑一致トハ民事事件モ刑事事件モ同一裁判所ニ於テ同一裁判官之ヲ裁判スルヲ謂フ(第二)裁判ノ統一主義裁判ノ統一トハ裁判所ノ階級即チ第一審裁判所第二審裁判所及ヒ第三審裁判所アリテ其第三審裁判所即チ上告裁判所ノ裁判ヲ以テ成ルヘク全國ノ裁判ヲ統一セントスルヲ謂フ第三永久法官主義第四彈劾主義尤モ純然タル彈劾主義ニ非ス幾分糾問主義ヲ加味シタルモノナリ尙ホ其詳細ハ更ニ下ノ説明ニ就テ知了スヘシ

## 第一 民刑一致主義

民刑一致主義ノ事ニ付テハ古來ノ沿革ニ考フルヲ以テ最モ其意義ヲ明カニスルニ足ル然ルニ我刑事訴訟法ハ日本ノ沿革又ハ當時ノ慣行ヲ斟酌シテ制定セラレタルモノニ非ス全ク歐洲諸國ノ法律ヲ其母法ト爲シタルカ故ニ其沿革ハ之ヲ歐洲諸國ノ歴史ニ資スルヲ相當トス

歐洲古代ニ於テハ司法權ト行政權トハ互ニ混同シテ殆ント其間ニ區別ナク希臘ニ於テモ亦同シク行政權ヲ有スル者同時ニ司法權ヲ有シタリ尤モ最初ハ「アレオバールジュ」ト名クル司法權ノミヲ有スル獨立ノ裁判所アリシモ人民ノ嫉妬スル所ト爲リ次第ニ其權限ヲ剪除セラレ議會即チ國會又ハ其他種々ノ裁判所ニ於テ其權限ヲ侵略スルニ至レリ而シテ此等國會其他ノ裁判所ハ行政權ト同時ニ司法權ヲ有スルモノナルカ故ニ勿論民事モ刑事モ同一ノ裁判官ニ於テ裁判シタリシナリ

羅馬ノ王國時代ニ於テハ國王ハ行政權ト司法權トヲ併有シタリシヲ以テ或ハ自ラ裁判ヲ爲シ或ハ之ヲ其臣下ニ委任シテ裁判ヲ爲サシメタリ要スルニ此時代ニ於テハ行政司法ノ權ハ國王一人ニ屬シタリシナリ

其後共和國ノ初ニ於テハ大統領即チ「コンシユール」ハ國王ノ權限ヲ相續シタリヤ否ヤ是レ一ノ疑問ナリシモ後世ニ至リテハ「コンシユール」ハ裁判權ヲ有セス國會ニ於テ之ヲ有スルコト明白ト爲レリ然レトモ國會ハ自ら裁判ヲ爲サス他ニ委任シテ之ヲ爲サシメタリ而シテ國會ハ立法權ト行政權ノ一部及ヒ司法權ヲ併有シタリシヲ以テ勿論民事刑事事ヲ問ハス同一裁判官ニ於テ裁判シタリト云ハサルヘカラス

降テ羅馬帝國ノ時代ニ於テモ羅馬帝其權ヲ併有セシヲ以テ民刑一致ノ點ニ於テ更ニ異ナル所ナカリシナリ然レトモ歐洲ノ中古ニ於テハ民事ト刑事トヲ分離シタルコトアリシト雖モ是レ寧ロ變例ニ屬レ一般ヲ通シテ民刑一致タリシヤ疑フ容レス而シテ我裁判所ノ構成ハ之ヲ歐洲ノ制度ニ則リ民事刑事事共ニ同一裁判所ニ於テ同一裁判官之ヲ裁判スルモノト爲セリ

## 第二 裁判ノ統一主義

此主義ハ歐洲古代ニ於テハ行ハレサリシモノニシテ殊ニ希臘ニ於テハ其影跡ヲモ存セサル所ナリ羅馬ニ於テハ前陳ノ如ク人民ヨリ成立シタル國會ニ於テ

裁判スルヲ原則トセシカ之ヲ他ニ委任シテ裁判セシムルニ至リ上院ヨリ選任セラレタル一人「プレツール」ナル裁判官裁判長ト爲リ或一ノ事件毎ニ人民ヨリ選出セラレタル裁判官之カ陪席ト爲リ以テ裁判所ヲ組織シ裁判ヲ爲シタリ而シテ此裁判ニ對シテ不服ナルトキハ國會ニ向テ控訴ヲ爲スコトヲ許シタリト雖モ此制度ハ今日ノ控訴制度ト異ニシテ被告ニ於テ初ヨリ國會ノ裁判ヲ欲スルトキハ國會ニ於テ始審ノ裁判ヲ爲スコトヲモ包含セリ

歐洲ノ中古時代ニ於テ今日ノ所謂控訴ナキモノト同一ノ制度行ハル、ニ至リシモ此時代ニ於テハ尙ホ上告ノ制ヲ認メス而シテ其上告制ノ認メラレタルハ極メテ近世ノ事ニシテ千七百九十年佛國革命ノ當時稍ヤ今日ノ上告制ニ相似タルモノアリシト雖モ未タ完備シタリト謂フコトヲ得ス其完備シタルハ其後佛國ニ於テ刑事訴訟法ナルモノ、編纂セラレタル時ニ在リ我刑事訴訟法若クハ裁判所構成法ハ之ヲ佛國法ニ則ラス獨逸法ニ倣ヒタリト雖モ元來獨逸法ハ其本ヲ佛國法ニ採リシモノナルヲ以テ佛國法其基礎ヲ成スモノト謂フヘシ我裁判所構成法ニ依レハ輕微ナル事件ニ付テハ區裁判所一人ノ判事ヲ以テ組

六  
職ス第一審ノ裁判ヲ爲シ地方裁判所(三人ノ判事ヲ以テ組織ス)ニ對スル控訴  
ノ裁判ヲ爲シ控訴院(五人ノ判事ヲ以テ組織ス)之カ上告ノ裁判ヲ爲スモノナリ  
而シテ其重大ナル事件ニ付テハ地方裁判所其第一審ノ裁判ヲ爲シ控訴院其控  
訴ヲ受理シ大審院(七人ノ判事ヲ以テ組織ス)ハ最終且最上級ノ裁判所トシテ之  
カ上告ノ裁判ヲ爲スモノナリ若シ夫レ如何ナル事件ハ輕微ニシテ如何ナル事  
件ハ重大ナルヤハ後章裁判所ノ管轄ヲ説明スルニ當リテ明カニスヘク又其控  
訴及ヒ上告ノ性質如何ハ上訴ノ編ニ於テ細説スヘシ  
右ノ如ク第一審ノ裁判ハ第二審即チ控訴審ニ於テ之ヲ訂正シ控訴審ノ裁判ハ  
第三審即チ上告審ニ於テ正誤スルモノナレハ結局裁判ノ統一ヲ爲スコトヲ得  
否裁判ノ統一ヲ爲サハレハ各裁判所ニ於テ事實ノ認定モ區々ト爲リ法律ノ解  
釋モ相齟齬シ裁判所ノ威信ヲ害スルノミナラス人々ヲシテ其適從スル所ヲ知  
ラサラシムルニ至ル是レ控訴院又ハ大審院ノ上告裁判所ニ於テ裁判ノ統一ヲ  
爲サシムル所以ナリ然レトモ果シテ我國ノ制度ハ此精神ヲ貫クヘキヤ否ヤハ  
後ニ述ヘントス

### 第三 永久法官主義

永久法官主義ニ對スルモノヲ一時法官主義トス一時法官トハ或一事件ニ付テ  
裁判官ヲ選任シ其事件結了スレハ裁判官ハ其任務ヲ了ハルモノヲ謂ヒ之ニ反  
シ永久法官トハ一度法官ト爲ルトキハ永久法官タル資格ヲ有スル者ヲ謂フ其  
最モ永久ナルモノヲ終身法官トス  
希臘ニハ「エリエー」ト名クル裁判所アリ「エリエー」トハ日下ト謂フ意義ヲ有ス何  
故ニ之ヲ日下裁判所ト名ケタルカヲ考フルニ希臘ニ於テハ毎年豫メ六千人ノ  
裁判官ヲ選定シ置キ一事件毎ニ或員數ノ裁判官ヲ選任シ以テ裁判ヲ爲サシメ  
タリ而シテ其人數ハ普通ハ之ヲ五百人ト爲シ時トシテハ六千人舉ケテ裁判官  
ト爲スコトアリ從テ到底一小家屋ノ内ニ於テ裁判ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ  
原野ハ繩張ヲ爲シ其中ニ於テ裁判ヲ爲サシメタリ是レ日下裁判所ノ名アル所  
以ニシテ固ヨリ一時法官タルモノナリ  
羅馬ニ於テモ希臘ト同シク原野ニ於テ繩張ヲ爲シ又ハ矢來ヲ造リ其中ニ於テ  
裁判ヲ爲セリ此時代ノ裁判官ハ彼ノ「プレツール」ヲ除ク外同シク人民中ヨリ一

々之ヲ選任シ以テ一時法官ノ制ヲ探レリ  
其後降リテ中古時代ニ於テハ行政官ニシテ司法官タル者裁判長ト爲リ其陪席  
裁判官ハ被告ノ階級ニ從ヒ其同班例ヘハ士族若クハ平民等ノ中ヨリ一時選任  
シタル者ヲ以テ之ニ充テタリ  
更ニ降テ現今歐洲ノ裁判制度ヲ見ルニ多クハ皆陪審制度ナリ此陪審制度ノ最  
モ完全ナルモノハ英國ニシテ佛國之ニ倣ヒ遂ニ獨逸伊太利等各國之ニ倣ヒタ  
ルモノニシテ此等ノ國ニ於テハ英國ノ如ク完全ナラス或重大ナル事件ニ付テ  
ノミ陪審制度ヲ採用シ他ノ輕微ナル事件ニ付テハ永久法官タル裁判官ノミニ  
テ裁判ス所謂陪審トハ人民中ヨリ一時選舉シタルモノニシテ刑事被告事件ニ  
付キ唯事實ノ認定ノミヲ爲ス者ヲ謂フ故ニ此場合ニ於テモ法律ノ點ニ關シテ  
ハ永久法官タル裁判官ニ於テ判斷スルモノナリ  
我裁判所構成法ニ於テハ陪審ナルモノナク總テ永久法官ノミヲ以テ裁判所ヲ  
構成セリ  
歐洲各國ハ何故ニ陪審制度ヲ採用シ我構成法ハ何故ニ之ヲ採用セザリシカハ

頗ル研究ノ價值アル疑問ナリトス蓋シ歐洲ニ於テ陪審制度ノ行ハル、ニ至リ  
タル所以ノモノハ他ナシ政權ヲ有スル者ハ人民ヲ壓制スルノ傾アルヲ以テ之  
ヲ防キ公平ヲ維持セントスルノ目的ニ出テタルモノナリ一時法官即チ陪審制  
度ヲ採用スル所以ノモノハ唯夫レ公平ヲ維持スル一點ニ在リ然レトモ此制度  
ト雖モ亦完全無缺ニ非ス予ノ考フル所ニ依レハ却テ弊害アルモノナリ蓋シ陪  
審ハ事實ノ點ノミニ付テ審理スル者ナルカ故ニ法律ヲ知ラス且審理ニ經驗ナ  
キ者ト雖モ敢テ差支ナキカ如シト雖モ熟ラ之ヲ實際ニ付テ考フルニ證據ノ不  
明瞭ナルトキ(不十分ナルトキ)ニ非ス又ハ爭アルトキノ如キハ經驗ナキ陪審ハ  
往々ニシテ有罪者ヲ不問ニ付スルノ弊害アリ永久法官ノ如キハ審理ニ經驗ア  
ル者ナルカ故ニ有罪者ヲ不問ニ付スルカ如キコト甚タ稀ナリ次ニ永久法官ハ公  
平ヲ缺キ一時法官タル陪審ハ公平ナリト謂フト雖モ永久法官カ人民ヲ壓制シ  
テ酷ニ過タルカ故ニ不公平ナリト謂ハ、陪審ハ人民ヨリ選出セタル者ナルカ  
故ニ寬ニ過タルノ不公平アリト謂フコトヲ得ヘシ現ニ羅馬帝國ニ於テハ此弊  
ニ堪ヘザリシコトアリ初メ羅馬帝國ハ憂國ノ民ヲ以テ充タレ其隆盛ノ時ニ

當リテハ人民義心ニ富ミ陪審ハ名譽職トシテ大ニ尊敬セラレ選任其人ヲ得隨  
テ陪審制度モ甚タ可良ナリシカ羅馬一タニ競運ニ傾クニ墮リテハ人心腐敗シ  
選任其人ヲ得ス賄賂公行シテ有罪ヲ不問ニ付シ無辜ヲ罰スルカ如キ其弊害實  
ニ堪ユ可カラザリシナリ此弊ハ決シテ今日ニ於テモ避ク可カラサルモノナリ  
蓋シ一ノ事件ニ付テ何某其陪審ト爲ルコト明カナルニ於テハ其間賄賂ノ行ハ  
レ易キコト固ヨリ已ムヲ得サルナリ故ニ若シ此弊ヲ避ケント欲セハ豫メ其陪  
審タルヘキ者ヲ知ラザラシムルニ若クハナシ之ヲ知ラザラシメント欲セハ同  
時ニ數十人ノ陪審ヲ出頭セシメ即座ニ其中ノ數人ヲ指名シテ其事件ノ陪審タ  
ラシムルニ在リ然レトモ此ノ如クセシニハ數十人ノ旅費日當等ヲ毎事件ニ支  
出セサル可カラス是レ恐クハ國費ノ堪ユル所ニ非サルヘシ然ラハ此等ノ費用  
ヲ避クル爲メ旅費日當等ヲ給セザランカ羅馬時代ニ於ケルカ如ク陪審ハ一ノ  
特權ニシテ最モ名譽ノ職ナリシトキハ知ラス後世ニ至リテハ多ク世人ノ尊敬  
ヲ受ケス人々其選任ヲ忌避シ一時ハ其選任ニ窮シタル時代ナレ之レ有リシナ  
リ況ンヤ旅費日當等ヲモ給セストセハ益其入選ニ窮スヘキヤ明カナリ果シテ

然ラハ此匡正策モ亦到底行ハルヘキニ非ス要スルニ陪審制ハ必スシモ公平無私  
ノ裁判ヲ得ンコトヲ期ス可カラス面シテ一方ニ於テハ經驗ニ富マサルヨリシ  
テ事實ノ認定ヲ誤マルノ弊アリ之ニ反シテ永久法官制ニ至テハ法官ハ相當ノ  
學識アリ數多ノ經驗アルヲ以テ事實ノ真相ヲ察知スルコト明晰ニシテ手續ノ  
迅速簡短ナル利益アリ而シテ其裁判ノ公平不公正ナル點ニ於テハ一見或ハ不  
公平ナルヘシトノ想像ヲ惹起スルコトナキニ非ス然レトモ其實際ニ微スルト  
キハ内ニハ良心ノ譴責アリ外ニハ法律ノ制裁アリ加之數多ノ同役ハ四方ヨリ  
環視スルカ故ニ殆ント全ク私慾私情ヲ遏シウスルノ餘地ナシ故ニ此等ノ點ニ  
於テハ陪審制ニ勝ルコト寧ロ數等ナラズンバアラス唯永久法官制ニ於テハ法  
官ハ政府ヨリ俸給ヲ得テ事ニ官ニ從フ者ナレハ或有力ナル上長官ノ依囑又ハ  
注文ニ對シテ斷然之ヲ退クル能ハサルノ虞アリ是レ陪審制ノ不羈獨立ナルニ  
及ハサルノ點ナリ然レトモ此弊ハ之ヲ拒クコト敢テ難キニ非ス其方法如何曰  
ク獨立且終身官ト爲スコト是ナリ本邦ニ於テ陪審制ヲ斥ケテ永久法官制ヲ採  
用シタルハ以上ノ理由アルカ爲メニ外ナラス而シテ法官ヲシテ獨立且終身官

タラシムルコトハ裁判所構成法ノ擔保スル所ナリ同法第七十三條ニ曰ク  
第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分  
ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラルコト  
ナシ但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラル  
ハ此ノ限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始若クハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關  
係アルコトナシ

其所謂第七十四條第七十五條ノ場合トハ判事カ身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ  
職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會  
ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得ルト法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更  
シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其判事ヲ補スヘキ關位ナキトキ司法大臣ハ俸  
給ノ半額ヲ給シテ關位アルマヲ待タシムコトヲ得ルトヲ指スモノナリ  
右第七十四條第七十五條ノ例外ハ當然ニシテ亦已ムヲ得サルモノナリト雖モ  
前掲第七十三條第一項但書後段ノ例外ニ至テハ異議ナキヲ得ス蓋シ一ノ裁

判所ニ關位ヲ生スルトキハ極端ヲ言ヘハ天下ノ法官ヲシテ盡ク轉所セシムル  
コトヲ得ルノ結果ヲ生ス例ヘハ甲裁判所ニ關位ヲ生スレハ乙裁判所ノ法官ヲ  
以テ之ヲ補ヒ其因テ生シタル乙裁判所ノ關位ハ丙裁判所ノ法官ヲ以テ之ヲ補  
ヒ又丙裁判所ノ關位ヲ補フ爲メ丁裁判所ノ法官ニ轉所ヲ命スル等此ノ如クス  
ルトキハ底止スル所ヲ知ル可カラス而シテ司法大臣ハ右但書ニ依リテ轉補ヲ  
命スルノ權ヲ有スルモノナリ故ニ假令司法大臣ニ於テ第七十三條但書ノ精神  
ヲ誤解シタリトスルモ法律カ明カニ司法大臣ノ轉補ノ權ヲ認ムルモノナレハ  
法官ハ一應此命ニ從ハサル可カラス果シテ然ラハ法官ノ獨立ヲ害スルヤ實ニ  
少小ナラサルナリ是レ外國ノ法律ニ於テハ但書ノ如キ規定ヲ認メサル所以ニ  
シテ予モ亦宜シク削除スヘキモノナリト信ス

#### 第四 彈劾主義

彈劾主義トハ裁判所ニ檢事ヲ附屬セシメ檢事ノ起訴アルニ非サレハ刑事裁判  
ヲ爲スコトヲ得サルモノニシテ希臘羅馬ノ古代ニ於テハ今日ノ如ク檢事ナル  
者ナク國民一般何人ニテモ犯罪者ニ對シテ彈劾起訴スルコトヲ許シタリ要ス

ルニ彈劾主義トハ訴フル者アリテ始メテ裁判スルコトヲ得ルヲ謂フ故ニ彈劾主義ニ於ケル刑事裁判ノ主體ハ裁判所及ヒ原告被告ノ三者ナリトス  
彈劾主義ニ對スルモノヲ糾問主義トス糾問主義トハ人民又ハ或一定ノ官吏ヨリ訴ヘ出ツルコトナキニ拘ラス犯罪アレハ裁判所ハ職權ヲ以テ自ラ被告人ヲ逮捕シ進メテ審理裁判スルニ在リ要スルニ裁判所ハ自ラ訴ヘテ自ラ裁判スルモノニシテ此主義ニ於ケル訴訟ノ主體ハ唯裁判所アルノミ  
糾問主義ハ自ラ訴ヘテ自ラ裁判スルモノナレハ其結果專横ニ流ルルヤ勿論ナリ歐洲ノ近古ニ於テハ一時此主義ノ行ハレタルコトアリシモ遂ニ世ノ排斥スル所ト爲レリ然レトモ此主義亦全然有害無益ノ制度ニ非ス或點ニ於テハ最モ有益ナル規定アリテ立法ノ資ト爲スヘキモ唯大體ニ於テ採用ス可カラサルモノトス各國刑事訴訟法ニ於テモ全然彈劾主義ノミヲ採用スルモノナキカ  
如ク我刑事訴訟法ニ於テモ純然タル彈劾主義ヲ採用セス糾問主義ノ長所ヲ採リテ之ニ加味シタリ例ヘハ已ニ檢事ノ制ヲ設ケ檢事ノ起訴ナクンハ裁判スルコトヲ得スト謂フハ即チ彈劾主義ナリト雖モ檢事ナル國家ノ代表者ニ非サレ

ハ起訴スルコトヲ得スト謂フハ糾問主義ノ臭味アリト謂ハサル可カラヌ況ンヤ檢事ノ起訴ナキニ拘ラズ裁判スルコトヲ得ルノ例外アルヲヤ其他糾問主義ノ痕跡數ヘ來レハハル枚舉ニ追アラヌ其詳細ハ手續ノ部ニ於テ知ルヲ得ヘ

### 第五 裁判所ノ構成職員

右彈劾主義ニ於ケル彈劾即チ公訴ハ國家ヲ代表スル檢事之ヲ行フモノニシテ何人モ之ニ代ハルコトヲ得サルモノナリ是ニ於テ予ハ檢事ハ如何ナルモノナルカ檢事ト判事トハ如何ナル區別アルカヲ一言セサル可カラス  
判事ハ前段永久法官制ヲ説明スルニ當リ概説シタルカ如ク檢事ノ訴ヘタル事件ニ付テハ不羈獨立何人ノ牽制ヲモ受クルコトナク自由ノ意見ニ從ヒテ裁判ヲ爲スヘキモノナルモ檢事ハ獨立ノ官ニ非ヌ上官ノ命令ニ從ヒテ事ヲ執ルノ義務アルモノナリ佛國ノ古語ニ曰ク吾ハ自由ナルモ筆ハ服從セサル可カラヌト此語簡單ニシテ能ク檢事ノ性質ヲ説明シタリト謂フヘシ其意謂ラク檢事ハ上ニ司法大臣アリ次ニ檢事總長檢事長檢事正アリ而シテ總テノ檢事ハ此等上官ノ







ト關スルトキ書記の自己ノ意見ヲ記セテ之ニ添フルコトヲ得ルハ其職權ニ屬スル事ナリ  
執達吏モ亦裁判所ノ一職員ナルモ裁判所ノ構成ニ關係ナキハ故ニ此ニ之ヲ轄  
ス

### 第一章 裁判所ノ管轄

裁判所ノ管轄トハ裁判所カ其裁判權ヲ行フコトヲ得ル土地及ヒ事物ノ範圍ヲ  
謂フ而シテ裁判所ハ其管轄ヲ超ヘテ裁判權ヲ行フコトヲ得サルカ故ニ其區域  
ヲ知ルコト極メテ必要ナリ今裁判所ノ管轄ヲ理論ニ依テ觀察スルトキハ被告  
事件ノ性質被告人ノ身分犯罪ノ場所被告人ノ所在又ハ裁判所ノ階級ニ因リテ  
種々ノ區別アリト雖モ先ツ大體ニ區別スルトキハ第一事物ノ管轄第二土地ノ  
管轄第三爲スコトヲ得所謂事物ノ管轄トハ拉丁語ニテ「シヨネ、マテリ、チー」  
譯語ニシテ事物ニ付テメ管轄ト謂フ義ナリ又土地ノ管轄トハ素テ拉丁語ノ「  
シヨネ、ベル、チー」即チ人ニ付テメ管轄ト謂フ義ヨリ出タルモノニシテ人  
付テメ管轄ト謂フトキハ少シク狹隘ニ失スルカ故ニ之ヲ土地ノ管轄ト名クル  
ニ至レリ

### 第一節 事物ノ管轄

事物ノ管轄トハ重ニ事件ノ性質被告人ノ身分裁判所ノ階級ニ關スル管轄ヲ指  
スモノニシテ裁判所構成法ノ規定スル所ナリ  
裁判所ノ構成ハ統一主義ヲ採リテ裁判所ニハ上級下級ノ階級アリ最下級裁判  
所ヲ區裁判所ト爲シ次ニ地方裁判所次ニ控訴院最後ニ最上級裁判所トシテ大  
審院アルコトハ既ニ前ニ一言シタルカ如シ而シテ此等ノ裁判所ハ其階級ニ從  
ヒテ各其管轄ヲ異ニスルモノナリ以下順テ述フテ之ヲ説明セシム  
(注意)裁判所ノ階級ト裁判ノ審級トハ異ナルモノナリ裁判所ノ階級トハ前陳  
ノ如シト雖モ裁判ノ審級ハ三アルノミ曰ク第一審曰ク第二審又ハ控訴審曰  
ク第三審又ハ上告審若クハ終審是ナリ宜シク混同スル勿ラシムコトヲ要ス  
第一 區裁判所ノ管轄  
裁判所構成法第十六條ノ規定スル所ニ依レハ區裁判所ハ刑事ニ付テ左ノ事件  
ヲ管轄ス

- (一) 違警罪 右構成法第十六條ニ依レハ區裁判所ハ刑事ニ付テ違警罪ヲ以テ

其第一ノ管轄ト爲スト雖モ今日ノ實際ニ於テハ區裁判所ハ之ヲ取扱フコト稀ナリ明治十八年布告第三十一號即決例ニ依リ違警罪ハ警察署ニ於テ呼出ニ應テ出頭シタル被告人ニ對シ警部之ヲ即決スルモノト爲リ住所不分明ナル者ニ對シテハ之ヲ逮捕引致シテ即決裁判スルコトヲ許セリ故ニ此即決例ニ於ケル裁判ハ糾問主義ニシテ同一ノ警部自ラ訴ヘテ自ラ裁判スルモノト謂フヘシ而シテ此裁判ハ裁判官ノ爲シタルモノニ非サルカ故ニ固ヨリ變則タルヲ免レサルナリ故ニ被告人ニシテ此裁判ニ服セサルトキハ更ニ區裁判所ノ正式ノ裁判ヲ請フコトヲ得ルモノナリ已ニ區裁判所ノ正式裁判ト謂フカ故ニ即決例ニ依リテ爲ス裁判ハ假裁判トモ謂フヘキモノニシテ區裁判所ノ裁判ハ控訴裁判ニ非ス第一審ノ正式裁判タルニ過キス尤モ實際ニ於テハ違警罪ノ刑ハ甚タ微々タルモノナルカ故ニ正式裁判ヲ請フ者甚タ稀ナリ

右ノ如ク即決例ニ依リテ裁判ヲ受ケタル者ハ更ニ區裁判所ノ正式裁判ヲ受ケンコトヲ請求スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ此ニ一ノ問題ヲ生ス他ナシ被告人カ即決裁判ニ對シテ區裁判所ニ正式裁判ヲ請求シタルトキハ其即決裁判ノ

効力ハ當然消滅スルモノナルカ又ハ區裁判所ノ正式裁判アルヲ其効力ヲ存續スルモノナルカト謂フコト是ナリ本問ヲ決スル利益ハ正式裁判ヲ請求シタル後其請求ヲ取下ケ即決裁判ニ服從スルノ自由アリヤ否ヤニ在リ若シ即決裁判ハ正式裁判請求ト共ニ消滅スルモノトセハ被告人ハ正式裁判請求ヲ取下ケ爲スコトヲ得スト謂ハサル可カラス余輩ノ考フル所ニ依レハ即決裁判ハ正式裁判ヲ請求スルト其ニ消滅スルモノナリト信ス蓋シ即決裁判カ正式裁判請求後ニモ尙ホ存スルモノトセハ區裁判所ハ正式裁判ヲ爲スニ當リテ即決裁判ヲ取消ストカ又ハ廢棄ストカノ裁判ヲ爲サル可カラス然ルニ法律ハ此點ニ付何等ノ規定ナキヲ見レハ區裁判所ハ右取消又ハ廢棄ノ裁判ヲ爲スヲ要セス然ラハ區裁判所ハ正式裁判ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スニ當リテモ即決裁判ヲ取消又ハ廢棄スルヲ要セス是レ即決裁判ハ正式裁判請求ト同時ニ消滅シタリト云フ所以ナリ

(二) 本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪 故ニ本刑五十圓以上ノ罰金ヲ附加シタル二月

以下ノ禁錮附加ノ罰金ノ有無ヲ問ハス本刑二月以上ノ禁錮又ハ百圓以上ノ罰金ノ輕罪ハ次項ニ該當スルコトナケレハ地方裁判所ノ管轄ニシテ區裁判所ノ管轄ニ非ス

此ニ所謂本刑トハ法律ニ定メタル刑ト謂フノ意味ニシテ實際言渡シタル刑又指シタルモノニ非ス例ヘハ刑法各本條ニ規定セタル何日以上何月以下ト謂フカ如キ是ナリ又此本刑トハ附加刑ト區別スルカ爲メニモ非ス附加刑ト區別スルカ爲メニハ法律ハ特ニ之ヲ主刑ト謂ヘリ罰金ニ關シテモ亦同シ  
(三) 刑法第二編第一章ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情節ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若クハ其支部ノ検事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノハ此規則ニ依レハ本刑カ一月以上二年以下ノ重禁錮ニシテ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキモノナルトキハ當然區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ非ス然レトモ其犯罪ニ付減輕ノ原因アリ又ハ酌量スヘキ情狀アルカ又ハ減輕ヲ爲サハルモ其情狀ニ於テ二

月以下ノ禁錮ニ處スヘキモノナリト爲ストキハ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナリ從テ二月以上ノ禁錮ニ處シ又ハ百五十圓以上ノ罰金ヲ附加スヘキモノト爲シタルトキハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ要スルニ斯ル場合ニハ見込ニ因リテ管轄ヲ異ニスヘキ罰金ノ利ニ於テモ同シタ本刑カ百圓以上三百圓以下ノ罰金ナルトキハ前項ニ依レハ地方裁判所ノ管轄ナルモ減輕スヘキ原因アルカ又ハ犯罪ノ情狀ニ於テ百圓以下ノ罰金ニ處スルヲ以テ足レトスルトキハ本項ニ依リテ區裁判所ノ管轄ト爲ル唯此等ノ規則ヲ適用スルコト能ハサルモノハ刑法第二編第一章ノ犯罪是ナリ  
倍ヲ右ノ場合ニ於テ裁判所ノ管轄ハ之ヲ起訴前ニ定メサレハ孰レノ裁判所ニ訴フヘキヤ之ヲ知ルニ由ナカルヘキ原告官タル檢事ヨリ之ヲ見レハ裁判所ニ於テ果シテ二月以下ノ禁錮五十圓以下ノ附加罰金ニ處スヘキヤ否ヤ未ダ知ル可カラズ從テ檢事ハ二月以下ノ禁錮五十圓以下ノ附加罰金ニ處スヘキモノナリト思料スルモ固ヨリ裁判所ハ五十圓以上ノ罰金ヲ附加シタルモノハ二月以上ノ禁錮ニ處スルコトアルヘキヤ勿論ナリ此故ニ起訴ニ當時ニ於テ結果シテ孰レ

ノ裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルヤ其到底之ヲ定ムルコトヲ得ス然レトモ  
訴ノ提起ハ遲延スヘキモノニ非サルヲ以テ檢事ハ先ツ假リニ自己ノ意見ニ從  
ヒ二月以下ノ禁錮五十圓以下ノ附加罰金ニ處スヘキモノナリト愚料スルトキ  
ハ之ヲ區裁判所ニ然ラサルトキハ之ヲ地方裁判所ニ訴フルコトヲ得而シテ其  
意見ヲ定ムルハ地方裁判所ノ檢事ニ限ルコト構成法第十六條ノ規定ニ依リテ  
明ナリ蓋シ事件ノ性質元來地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナレハ其識別ヲ  
爲スハ地方裁判所檢事ノ職務ニ屬スルモノトス故ニ地方裁判所ノ檢事ニシテ  
二月以下ノ禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加スルヲ以テ足ルト愚料スルト  
キハ事件ヲ區裁判所檢事ニ送致シ其裁判所ニ起訴スヘキコトヲ命スルヲ得而  
シテ區裁判所檢事ハ之ヲ拒絕スルノ權利ナキモノナリ然レトモ區裁判所ハ檢  
事ノ意見ニ從ヒ二月以下ノ禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加スルノ義務ナ  
キハ勿論二月以上ノ禁錮ニ處シ五十圓以上ノ罰金ヲ附加スヘキモノナリト判  
斷シタルトキハ管轄違ノ判決ヲ爲スコトヲ得從テ先ニ地方裁判所檢事ノ定メ  
タル管轄ハ決テ確定ノモノニ非サルナリ構成法第十六條第三號第二項ニハ

リ「ハ斯ル場合ニ於テハ單ニ中立ノ名義ヲ用ガテ行政ヲ行フヘキコトヲ説キ  
佛國陸軍士官心得者ニハ占領地本國ノ名義ニテ政務ヲ執ラシムヘキコトヲ規  
定セリ日清戰爭ニ於テハ占領地清國人民ヲ治ムル政略上ノ必要アリタルニ由  
リ大日本帝國ノ名義ヲ以テ金州行政廳ハ其政務ヲ執行セリ

## 第二項 占領地人民ニ對スル權利

占領地人民ニ對シテ軍隊ハ自己ノ安全及成功ニ關シテ無限ノ權力ヲ行ヒ得ヘ  
キニ由リ地方人民ノ身體及自由ヲ保護スルト同時ニ軍隊ノ必要ニ由リテハ人  
民ヲ徵發セテ使用スルヲ得ヘク又人民ノ占領軍ノ命令ニ服從セタルカ若クハ  
反抗ノ行爲アルニ於テハ之ヲ嚴刑ニ處スルハ勿論トシテハ其住民ノ本國ト  
ノ交通ヲ全然遮斷シ其通商ヲ禁シ本國軍隊ニ加入若クハ通報シ又ハ其嚮導ト  
ナルコトヲ罰シ普佛戰爭ニ於テハ占領地人民ノ佛國軍隊ニ入ルトキ又ハ其住  
所ヲ離ルハトキハ不在中一日五十フランノ罰金ヲ其親族ニ賦課セリ其他占領  
軍ノ嚮導ヲ誤リ電信道路運河橋梁等ヲ故意ニ破壞シ又ハ占領軍ノ兵營若クハ  
輜重ニ害ヲ加フルハ死刑ニ處セラルルヲ普通通トス占領地人民ノ占領軍ヲ驅逐

モントスルノ行爲ハ其目的ヲ達セサルトキハ死刑トナリ若シ俘虜ト爲リタルトキハ犯罪者トシテ軍法會議ニ付シ加之ナラス占領地ノ都府町村ニ於テ占領軍ニ敵意ノ行爲アリタルトキ其人民ニシテ之ヲ起シ又ハ之ニ加擔シタルモノト認定スルニ於テハ其都府町村ノ連帶責任トシテ刑罰課金ヲ賦課シ得ヘキノミナラス其地方ノ人家ヲ破壊若クハ燒却シ得ヘク千八百七十一年普佛戰爭ノ時「ローレン」州ニ於テ「フラン」州ノイ橋梁ヲ破壊シタル者アリシヲ以テ同州大守ハ全州ニ對シ一千萬フランノ刑罰課金ヲ命シフランテノイ村落ヲ燒却シ千八百七十年十月獨逸第二軍ノ司令長官ハ布告ヲ出シ凡テ佛國兵士ノ占領地ニ入り來ルトキハ之ヲ獨逸士官ニ通告スルニ非サレハ其隱匿ノ家屋又ハ町村ヲ燒拂ヒ其他電線橋梁運河等ヲ破損ノ行爲アルトキハ其行爲ハ地方人民ノ爲シタルト否トヲ問ハス其人民ノ之ヲ知ルト否トニ係ハラス其地方ハ特別ノ課金ヲ蒙ルヘシトシ又同年八月中獨逸國ハ一般占領地ニ對スル布告ニ於テ獨逸軍ニ犯罪アル人民ノ所屬スル地方又ハ其犯罪ノ行爲地ニ向テ一犯罪毎ニ一今年ノ地租ト同額ノ刑罰課金ヲ賦課スヘキコトヲ布告セルハ其實例タリ其

外千七百九十六年「ナボレ」州ノ伊太利及西班牙ニ侵入セルトキモ均シク嚴酷ナル刑罰ヲ占領地反抗者ニ課シタル事實少カラス斯ク占領軍ノ地方犯罪者ニ命スヘキ課金其他懲罰ノ程度ハ固ヨリ一定スルコト能ハスシテ如何ナル嚴法モ其當時ノ事情ニ由リ施シ得ヘキモノナレトモ多クノ場合ニ於テハ犯罪ノ危險ニ比例セサル嚴酷ニ失スルコト無キニ非ス要スルニ反抗者犯罪者ヲ懲罰スルノ外ニ地方ニ刑罰課金ヲ命スルカ如キハ軍隊政界上避クヘカラサル必要アルニ非サレハ決シテ許スヘキモノニ非ス

又時トシテハ占領軍ノ賦課シタル課金徵發ノ調達ヲ催ス爲メ其地方ノ名望家ナトヲ人質ト爲スコトアリ或ハ占領地人民ノ反抗ヲ豫防スルカ爲メ人質ヲ取リ置クコトナキニ非ス然レトモ如何ナル場合ニ於テモ是等人質ハ俘虜ト同様ノ待遇ヲ受ケ決シテ殺傷又ハ虐待ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ其目的ヲ達スルニ就キ大ナル効力ナキモノトス就中犯罪豫防ノ人質ノ如キハ特ニ其効力ノ薄弱ナルヲ以テ之ヲ行フハ其人質タル人民ハ住民ノ反抗ヲ爲サントスルニ付キ有用ナル人物ナルカ又ハ其反抗ヲ爲サントスルモ其人人物ナキニ於テハ首領

ヲ失フカ如キ場合ニ於テ市テ効力ヲ有スヘキモノトス千八百七十年獨逸國ハ  
占領地人民ノ屬、海軍ヲ攻撃シタルヲ以テ鐵道ニ沿ヒタル都府町村ノ名望家  
ヲ人質トシ之ヲ海軍中ニ置キテ以テ人民ノ攻撃ヲ避ケントシ其地方ノ官吏并  
ニ鐵道會社ノ役員及線路司令者ヲ海軍中ニ置ケリ此行爲ニ對シテハ人質ヲ拘  
留禁錮セサルノ原則ヲ破リタルモノトシテ一般ノ批難スル所タリ

### 第三項 占領地財産ニ對スル權利

占領地ノ土地其他官有公有ノ不動產ハ決シテ占領軍ノ所有スルコト能ハサル  
ニ由リ戰爭中占領者ノ之ヲ賣却スルカ如キ行爲アルニ於テハ買得者ハ後日原  
所有國又ハ所有者ヨリ取戻サルハノ危險アルノミナラス若シ第三國ニ於テ斯  
ル不動產ヲ讓受ケントシテ金錢物品ヲ占領國ニ支給スルトキハ對手國ハ之ヲ  
目シテ中立ヲ破リ敵國ニ加勢シタルモノト看做シ得ヘク其第三國モ之ニ對ス  
ル責任ヲ免カルハコト能ハス千八百七十年普佛戰爭中獨逸政府ハ佛國ミユ  
ス及シヨールト地方ノ享有山林ノ木材一万五千本ヲ賣却シタルニ戰爭終了後  
佛國政府ハ其木材ノ未タ其山林ヨリ取拂ハサルモノヲ差押ヘタルニ買主ハ之

ヲ獨逸政府ニ訴ヘタリシカ政府ハ其伐木ハ交戰國ノ權利ヲ超過シタルモノト  
認メ佛國法廷ノ裁判ニ一任シタルニ法廷ハ其伐木ハ山林ヲ荒蕪ニ歸スヘキノ  
理由ヲ以テ獨逸國ノ賣却ヲ無効トセリ殊ニ學術技藝教育慈善宗教ニ關スル建  
築物ハ社會一般ノ公益上占領軍ト雖モ保護スヘキニ由リ學校病院ノ如キ建築  
物並ニ之ニ屬スル器物書籍等ヨリ歷史上ノ紀念物美術及工藝ノ物品ハ當ニ戰  
利品トスヘカラサルノミナラス之ヲ保護スルノ義務ヲ有シ根リニ破損スルヲ  
許サス然レトモ凡テ官有公有ノ不動產ハ占領軍ノ管督ニ屬シ之ヲ正當ニ使用  
スルノ權利ヲ有スルヲ以テ鐵道電線其他交通機關ヲ使用シ官有建築物又ハ土  
地等ヲ貸與シテ其利益ヲ收得シ得ヘキモノトス

私有ノ不動產ハ軍隊ノ必要上徵發ニ由リ使用スルハ妨ナキモ之ヲ沒收使用ス  
ルノ權利ナシ然レトモ事實上避クヘカラサル必要アルニ於テハ其建築物ヲ破  
壞シ又ハ城壘ニ適用シ得ヘク非戰鬪者ノ住所ヨリ發砲シ其他軍隊ニ對シテ不  
法ノ行爲アルニ於テハ其犯罪者ヲ罰スルノ外ニ建築物ヲモ破壞シ得ヘキハ前  
述ノ如シ又動產ニ付テハ國有私有ヲ問ハス戰利品ト爲レ得ヘキモノアリ戰爭



ノ用ニ收得使用セラルヘキモノアルハ戰利品並ニ徵發課金ノ章項ニ於テ説明セルカ如シ其他占領軍ノ保護スヘキ國有動産並ニ私有動産ニシテ戰利品トスヘカラサルモノニ對シテハ課金徵發ノ外ハ軍隊ノ收得使用スヘカラサルノミナラス之ニ破壞掠奪ヲ行フコトハ禁スル所ニシテ特ニ兵士ノ箇人的掠奪暴行ハ決シテ許ス所ニ非ス

## 第五章 海戰ニ於ケル敵國人民ニ對スル權利

### 第一節 海上戰鬪ノ船舶

海戰ニ於テ戰鬪艦巡洋艦砲艦及水雷艇等交戰國海軍ヲ組織スル一切ノ船舶ハ中立國版圖外ノ海上ニ於テ戰争ニ從事シ又ハ敵國ノ商業交通ヲ妨害シ得ヘキコトハ疑ナク又ヲツクスフホード陸軍法規第二條第三項ニ於テモ軍艦乗組員其他國家ノ海軍ニ屬スルモノハ戰鬪者ト看做セルカ如ク苟クモ軍籍ニ在ル士官兵士ノ戰争ノ行為ヲ爲シ得ヘキハ論ナシト雖モ歐洲諸國ニ於テハ相當海軍ノ設ナキ時代ヨリシテ私有船舶ヲ用非テ戰争ヲ爲シ又ハ敵國ノ商船ヲ攻撃シ其交通通商ヲ妨害スルノ慣例行ハレ中世ニ於テモ列國中未タ海軍ヲ有セサル

モノアリ若クハ單ニ薄弱ナル軍艦ヲ有スルニ止マリタルヲ以テ戰争ニ於テハ商船ヲ以テ戰鬪ニ從來セシメ又ハ之ヲ雇入レテ其用ニ供シ軍人以外ノ人民モ亦タ政府ノ費用又ハ自己ノ費用ヲ以テ其船舶ヲ武裝シ若クハ官船ヲ借入レテ水夫ヲ乗込マシメ進シテ戰争ニ從來シタルモノニシテ佛王ルイ十四世ノ時ニ於テスラ佛國公使ノ侮辱サレタル報仇トシテ佛國人民ハリヨージヤチイロニ於ケル葡國人ヲ遠征セリ今軍艦軍人以外ニシテ海戰ノ行為ニ從事シ來リタルモノ並ニ今日何ホ從事スルモノヲ略說セン

### 第一項 拿捕用ノ私船

拿捕用ノ私船トハ戰争ノ際交戰國又ハ第三國ノ人民ニシテ商船其他ノ私有船舶ヲ武裝シ交戰國一方ノ政府ヨリ認可狀ヲ得テ主トシテ敵國ノ商船ヲ拿捕シ其船舶財産ヲ取得スルノ行為ニシテ此慣例ハ中世以前ヨリ存在シ來リ之ヲ用ユルノ理由ハ第一戰争ノ爲メ航海者ノ業ヲ失ヒタルモノヲ利用シテ自國ノ利益ト爲スト同時ニ其航海主ニ生計ノ途ヲ與ヘ第二ニハ國家ノ海軍微弱ナルモ之ニ由リテ少時間ニ少ナル費用ヲ以テ一時ノ戰鬪力ヲ作リ得ヘキヲ以テナリ

然レトモ斯ク私船ヲ拿捕ノ用ニ供スル弊害モ亦タ少カラサルヲ以テ交戦國ニ於テモ固ヨリ之ニ注意シ斯ル船舶ニシテ不正ノ行爲アルニ於テハ其認可狀ヲ取消スノミナラス自國軍艦等ニシテ時時之ニ臨檢セシメ戰時法則ノ違犯ヲ監督スルモノナレトモ第一ニハ此等船舶ノ主義トスル所ハ素ト敵國財産掠奪ニ在ルヲ以テ之ニ對シ國家ノ名譽心又ハ職務ノ尊重心ヲ望ムコト能ハス隨テ戰爭後ニ於テモ盜賊ノ心情ヲ其社會ニ注入スルノ媒介ト爲リ一般通商ヲ尊重スル今日ニ於テハ甚シキ害毒ヲ航海者社會ニ殘スヲ免レス第二ニハ斯ル海員ノ行爲ニ就テハ固ヨリ嚴重ナル監督ヲ要スルニ係ハラス事實上其監督モ却テ小ナルヲ免レス加フルニ其制裁モ間接ニ屬スルノミナラス冒險無謀ナル航海業者ノ監督ヲ到底海軍ニ訓練セル水兵ヲ監督スルカ如ク容易ナルモノニ非ス第三ニハ中立國船舶ニ對シ戰時ノ權利ヲ行フハ尤モ慎重ヲ要スルニ係ハラス之ヲ私船ノ海員ニ望ムコト能ハス而シテ其權利亂用ハ大ナル弊害ヲ來スヘキモノナルヲ以テ第十五世紀以來交戦國ハ私船拿捕ノ認可狀ヲ自國人ト第三國人ノ區別ナク交付シ其捕獲ニ係ル物品ノ全體又ハ殆ント全體ヲ拿捕者ニ與ヘ

私船ヲ以テ拿捕ヲ行フコトハ航海業者ノ一種ノ商業ノ姿ト爲リタルニ係ハラス第十八世紀ニ於テハ列國ハ其弊害ヲ防クノ必要ヨリシテ自國法令ヲ以テ自國人民ノ交戦國ヨリ認可狀ヲ受タルコトヲ禁スルニ至リ千八百四十五年米墨戰爭ニ於テ墨西哥政府ハ第三國ノ人民ト雖モ請求ニ依リ私船ヲ以テ敵國商船ヲ拿捕セシムヘキ認可狀ノ交付ヲ宣告シ千八百六十二年米國南北戰爭ニ於テ南軍政府ハ同一ノ宣告ヲ爲シタルハ近世交戦者ノ他國人民ニ認可狀ヲ交付セントシタル實例ナレトモ第三國人民ノ之ニ應シタル者ナク國際公法ニ於テモ中立國人民ノ私船ヲ以テ交戦國ノ商船ヲ拿捕スルハ許ササル所ト爲レリ

交戦國人民ノ私船ヲ以テ拿捕ヲ行フニ付テハ千七百八十五年米普條約ニテ締盟國ノ戰爭ヲ爲ス場合ニハ互ニ之ヲ廢止スヘキコトヲ規定シ第十八世紀ノ後半期ニ於テハ歐洲諸國ニ其弊害ヲ厭ヒテ之ヲ廢止セント欲シ遂ニ千八百五十四年英佛兩國ハ露國トノ戰爭ニ於テ武裝ノ官船ノミヲ以テ戰爭ヲ行フコトヲ通告シ露國ニ於テモ同シク私船ヲ以テ拿捕セサルコトト爲シ千八百五十六年



英佛普、埃露、サル、マニヤ及土國ノ七國ハ巴里宣言ト稱スル條約ヲ結ビ列國國際上一定ノ法則トシテ左ノ規定ヲ爲セリ。

第一、私船ヲ拿捕ノ用ニ供スルコトハ自今廢止スル事。

第二、局外中立國ノ旗章ヲ掲クル船舶ニ搭載セル敵國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除ク外之ヲ拿獲スヘカラスル事。

第三、敵國ノ旗章ヲ掲クル船舶ニ搭載セル局外中立國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除ク外之ヲ拿獲スヘカラスル事。

第四、港口ノ封鎖ヲ有効ナラシムルニハ實力ヲ用非ナルヘカラス即チ敵國ノ海岸ニ接近スルヲ實際防止スルニ足ルヘキ充分ノ兵備ヲ要スル事。

此宣言アリテヨリシテ二個年間ニ他ノ三十五個國モ之ニ加盟シ明治十九年我國モ之ニ加盟シ今日ニ於テハ米國墨西哥支那等ノ數個國ヲ除キ列國ハ悉ク之ニ加盟スルニ至レリ而シテ米國ノ之ニ賛同セサル所以ハ敢テ私船ヲ以テ戰爭ノ際拿捕ヲ行フヲ可トスルニ非スシテ米國ノ政略トシテ平時軍備ヲ設ルコト少キヲ以テ戰時ニ於テハ商船ヲ以テ拿捕ノ用ニ供スルノ必要アリ然レトモ戰爭

ニ當リ交戰國ノ商船及其他ノ財産ヲ海上ニ於テ全ク拿捕セサルコトヲ米國ハ大ニ主張スル所ニシテ私船ヲ用非テ拿捕ヲ禁スルト同時ニ海上私有財産ノ捕獲ヲ禁シテ商船商品ノ安全ヲ保證スルニ非ザレハ獨リ私船ノ拿捕ノ用ニ供スルコトノミヲ禁止スルニハ賛同セストスルニ外ナラス然ルニ南北戰爭ニ於テハ北軍政府ノ巴里宣言ニ加盟センコトヲ英佛兩國ニ申込ミタルモ其意思ノ存スル所蓋シ當時南軍私船ノ北方海岸ニ於テ商船ノ拿捕ヲ盛ニ行ヒ居リタルヲ以テ歐洲諸國ヲシテ其行爲ヲ海賊ノ行爲ト看做サシメントスルニ在リタルノ疑アリタルヲ以テ英國政府ハ之ニ答ヘ佛國政府ト其加盟ヲ承諾スヘキモ同戰爭中ニハ何タル影響ヲ及ボサハルニキコトヲ條件ト爲シタルニ由リ其加盟ノ協議モ破レタルコトナリシカ昨年四月ギユバ戰爭ニ於テ米國政府ハ自カラ私船ヲ拿捕ノ用ニ供セサルコトヲ宣言シタルヲ以テ方今列國ニ於テハ殆ント悉ク之ヲ行フモノナキニ至リ假令今日巴里宣言ニ加入セサル國家ハ條約上ノ義務ナシトスルモ私船ヲ以テ拿捕ヲ行フニ於テハ諸國一般ノ之ニ反對ヲ來シ之ヲ國際公法ノ法則トシテ禁止セル多數中立國ノ船舶ニ對シ交戰國ノ私船ヲ以

ヲ臨檢検査其他戰時ノ權利ヲ行ヒ得ルヲ其ノミカラス之ヲ行ハントモ中立國ノ雄惡ヲ來シ國際問題ヲ惹起スヘキハ勿論假令敵國商船ノミニ對シテモ私船ヲ以テ有力ノ拿捕ヲ行ハントモ巡洋艦ト均シキ船舶ヲ作ラサルヘカラス而ルニ其費用ノ大ニシテ沈没捕獲ノ危險アルニ係ハラヌ斯ル船舶ハ到底私人ノ之ヲ作ルコトヲ金テ及フ所ニ非サルニ由リ私船ヲ以テ拿捕ニ用ニルコトハ巴里宣言ニ盟約セル國ハ勿論其宣言ニ加盟セサル國ニ於テモ今日實際ニ於テ行フヘカラナル姿ト爲レリ

## 第二項 義勇艦隊

義勇艦隊トハ千八百七十年普佛戰爭ニ於テ生シタルモノニシテ同年七月普國ハ其海軍微弱ナル故ヲ以テ商船所有者及航海業者ノ希望ヲ容レ商船ヲ使用シテ獨逸國旗ヲ掲クシメ其船舶ヲ海軍ノ訓練及指揮ノ下ニ置き戰爭中其海員ハ政府ヨリ給料ヲ受ケテ一時海軍ノ籍ニ入り船舶賃借料シテ船舶所有者ハ政府ヨリ一定ノ報酬ヲ受ケ其船舶ノ敵國商船又ハ財産ヲ捕獲スルトキハ政府ヨリ金銀ニテ賞與金ヲ受ケルノ制ニシテ佛國政府ハ之ヲ私船ヲ用非タル拿捕ト

看做セ巴里宣言ノ破壞ト爲シ遂ニ普佛兩國ハ此問題ニ關シテ英國政府ノ意見ヲ問ヒタルニ同國法官ハ獨逸義勇艦隊ハ私船ヲ拿捕ノ用ニ供スルモノトハ大ナル區別ノ存スルモノト決定シ巴里宣言ノ破約ニ非スト判定セリ然レトモ此點ニ付テハ學者ノ議論存スル所ニシテ「カルボー」及「ホール」等ハ之ヲ非難シ私船ノ拿捕ト異ナル所ナシトシ「ブレンヂュリー」「トウ井」等ハ義勇艦隊ニ對シテハ批難スヘキモノニ非ストスルカ如ク今之ヲ果シテ私船ヲ拿捕ノ用ニ供スルモノト看做スヘキヤ否ヤノ議論ノ當否ハ姑ク措キ方今列國ノ之ニ反對スル者ナキコトナレハ列國ハ猶ホ陸軍ニ於テ民兵又ハ義勇兵ヲ以テ戰鬪力ヲ大ニセントスルト均シク海戰ニ於テモ爭ヒテ義勇艦隊ヲ使用スルノ利益ヲ認メ千八百七十七年及七十八年ニ於テ英露兩國ノ戰爭ヲ惹起セントシタルニ當リテ露國人民ハ義捐金ヲ以テ船舶ヲ買入レ義勇艦隊ヲ組織シ戰爭中ハ海軍士官ノ指揮ノ下ニ置キ政府監督ニ依リ運動セントシタルモ其國際萬藤ハ伯林會議ニテ平和ニ終局セタルモ義勇艦隊ハ今日猶ホ存在シ其艦數並ニ船體力ニ應シテ年々露國政府ノ補助金ヲ受ケ黑海及浦鹽港間ノ航海ヲ爲シ兵士及罪人ヲ

モ運搬スルノ外商業ヲモ營ミ其艦數モ年ヲ追ヒテ増加シ船體力モ改良ヲ加フ  
ルノミナラス戰爭ニ於テハ政府ノ官船ニシテ軍艦ノ用ヲモ爲スモノナルニ係  
ハラス土國政府モ露國外交上勢力ニ壓セラレ之ヲ軍艦ト同一視スルコト能ハ  
ス千八百五十六年千八百七十一年並ニ千八百七十八年ノ列國條約ニテ保障ア  
ル「ダルダネル」及「ボスボラス」兩海峡ヲモ露國義勇艦隊ノ常ニ故障ナク通航スル  
所タリ

巴里宣言ノ規定アルニ係ハラス方今列國ハ其戰爭アルニ當リテ商船ヲ義勇艦隊  
トシテ戰爭ノ用ニ供セントスルハ實ニ露國義勇艦隊ニ限ラスシテ英國ハ千八  
百八十七年以來大西洋太平洋ヲ航海スル「キユーイナード」及「ホウイト」スタ  
ー並ニ  
加奈太線等ノ私立郵船會社ト特約ヲ結ビ年々一定ノ補助金ヲ與ヘテ何時ニテ  
モ政府ノ通知アルハ否ヤ迅速ノ船舶ヲ一定ノ賃金ヲ以テ政府ニ貸與シ其船舶  
ノ製造モ海軍省ノ指揮ヲ受ケテ作ルコト、船舶員ノ半數ハ海軍豫備士官ヲ以  
テ之ニ宛ツルコト、爲シ米國ハ千八百九十二年ニ於テ同國商船會社ト同一ナ  
ル特約ヲ結ビ佛國及獨逸國モ亦其國ノ大ナル郵船會社ニ對シテ斯ル規約アル

モノハ如シ

### 第二節 海上戰鬪者ノ待遇

海戰ニ於ケル戰鬪者ト非戰鬪者ノ身體ニ關スル權利義務ニ付テハ陸戰ニ於ケ  
ルト異ナル所ナク俘虜ノ待遇モ亦タ同一タリ而シテ其俘虜ト爲シ得ヘキ者  
ハ獨リ戰鬪者ニ限ラスシテ敵國商船ノ海員ヲモ亦タ俘虜ト爲シ得ヘキコトハ  
前述セルカ如シ又病者負傷者ノ待遇ニ關シテハ一般ノ原則ニ由ルヘキモ特ニ  
海上戰鬪者ノ救護ニ關シテハ千八百六十八年巴里ニ於テ列國代表者ハ「セネバ  
ル」條約附屬條約ヲ締結シ同條約第六條以下第十五條ニ於テ詳細ノ規定ヲ爲セリ  
此規定タル未タ列國ノ批准ヲ爲セタルモノナキニ由リ國際公法ノ法則タル性  
質ヲ有セサレトモ既ニ千八百七十年普佛戰爭ニ於テハ兩國ノ假リニ實行スル  
所ト爲リ又學說ニ於テ非難ナキ所ナルニ由リ自カラ交戰國行爲ノ標準ト爲ス  
ニ足ルヘキ其規定ニ由テハ海戰ノ負傷者ニシテ海上病院タル官船又ハ商船ニ  
在ルトキハ中立ノ取扱ヲ受ケ其救護看病ニ從事スル者ヲ中立トシ負傷者ノ  
歸國ニ關シテハ陸戰ニ於ケルト同一ニシテ若シ其船舶ノ官船ナルトキハ敵國ノ

軍備ヲ蒙ルヘキモ戰爭中其器具材料ノ用方ヲ變スルコト能ハス又商船ニシテ特ニ負傷者ヲ看護シ若クハ其運搬ニ從事スル者ハ國籍如何ヲ問ハズ中立ノ待遇ヲ受ケ交戰國軍艦ハ之ニ臨檢検査ノ權利ヲ有スレトモ捕獲スルコト能ハス其船中ニ搭載ノ物品モ禁制品ニ非サレバ中立ノ待遇ヲ受ケ其外交戰國政府ノ認可アル救護會ノ費用ヲ以テ艦裝セタル救護船ニシテ政府ノ委任狀ヲ有シ最後出帆ノ時迄管轄海軍ノ監督ヲ受ケタル者ハ天然其他ノ原因ニ由リ本國軍艦ヨリ離隔シタルトキト雖モ交戰國ハ相互ニ之ヲ保護スヘキコトナセ

凡テ政府ノ船舶ト否トヲ問ハズ中立ノ利益ヲ受クヘキ船舶ハ國旗ト共ニ赤十字旗ヲ掲揚シ其船員ハ同一ノ臂章ヲ有シ此等船舶ハ負傷者及難船者ノ國籍如何ヲ問ハズ救助及看護ヲ爲スノ義務ヲ有シ其救護ニ係ル者ハ戰爭中再ヒ服従スルヲ許サズ又交戰國ハ其歸國ヲ請求スルヲ許サズ又糧舟ニシテ危險ヲ冒シ戰國中又ハ戰間後難船者又ハ負傷者ヲ受容シ又ハ之ヲ中立船舶若クハ救護船ニ送致スルモノハ其任ヲ終ル迄ハ中立ノ待遇ヲ受ヘキモノトス然レトモ此特

權ハ戰爭ノ情況及交戰國軍艦ノ位置ニ於テ中立ト爲リ得ヘキ場合ニ限り交戰國軍事上ノ機密ニ害アリト思考スルトキハ其交通進行ヲ禁止シ得ヘキノミナラス是等船舶ヲ監督臨檢ノ權アルノ外ニ事情ニ由リテハ其協力ヲ拒絕シ又ハ離隔ヲ命シ非常ノ場合ニ於テハ拘留ヲモ爲シ得ヘキノタリ

## 第六章 海上ニ於ケル敵國財産ニ對スル權利

### 第一節 海上捕獲

#### 第一項 敵國ノ官有船舶

敵國ノ官船ハ敵國又ハ自國ノ領海若クハ公海ニ於テ攻擊又ハ捕獲シ得ヘク單ニ中立國ノ領海ニ於テノミ之ニ對シテ戰爭ノ行爲ヲ行フコト能ハス茲ニ官船ト云フハ必スシモ軍艦等ノ如ク戰爭ノ用ニ供スル官船ニ限ラス又人民ノ所有ナラサルモノニモ限ラスセテ例ヘバ敵國官吏ノ指揮ノ下ニ在リテ國家ノ使用ト爲リ居ルモノハ假令私人ノ艦裝ニ係ルモノモ官船ニ屬シ又國家ノ借入レタルモノハ其借入申全ク政府ノ使用ノ下ニ在リテ海軍士官其他官吏ノ指揮ニ屬スル以上ハ假令其所有權ハ私人ニ在リテ私有船舶ナルニ係ハラズ貸借期

間ハ之ヲ官船ト看做スヘキモノトス然レトモ近世ノ慣例トシテ土地商業及學術上ノ探見船ハ官船私船ヲ問ハス敵國政府ヨリ無事ニ航海ヲ爲スノ免狀ヲ受ケ得ヘク其船船ノ戰爭行爲ニ關與セサル間ハ交戰國ノ保護ヲ受クルコトハ爲リ北米合衆國獨立戰爭中ニ於テ英國探見船長クック氏ハ戰爭中何タル妨害ヲ受クルコトナク其進航ヲ爲シ千八百五十九年埃國探見船ノバラ號ハ伊國トノ戰爭中學術上ノ研究ヲ敵國ノ妨害ナクシテ爲スコトヲ得タリ尤モ斯ル船船ト雖モ戰爭ノ必要ニ由リテハ拘留セラルハコトナキニ非ス例ヘハ千八百三年英國探見船カンバランド號ハ佛國海軍省ヨリノ免狀ヲ有シタルニ係ハラス澳洲探見ヲ畢ヘ歸航ノ際メルイ港ニ前航セルニ戰爭ニ關係ヲ有スル嫌疑アリタルニ由リ佛國ノ爲メ拘留セラレタルカ如シ要スルニ斯ル探見船ハ方今交戰國ニ於テ攻擊沒收セシテ其探見ニ從事セシムルノ慣習ニシテ戰爭ノ必要ニ由リテハ單ニ拘留セラレ得ヘキニ過キス又戰爭中俘虜交換船ハ其職務ヲ行フノ必要上中立ノ經過ヲ受クヘク斯ル船船ハ普通俘虜交換事務所ヨリ免狀ヲ受ク其船船ノ性質ヲ證明シ在ルコトナレトモ假令之ヲ有セサル場合ニ於テモ其職

務ノ明白ナルトキハ捕獲ヲ免レ甲板ニ俘虜ヲ搭載セサルトキト雖モ俘虜ノ運搬ニ從事シタルモノナル以上ハ固ヨリ中立ノ待遇ヲ受クヘキモノタリ然レトモ其交換船ニシテ商品又ハ通信物ヲ搭載スルカ若クハ敵國ニ對シテ敵意行爲アルトキハ中立ノ待遇ヲ受タルコト能ハスシテ攻擊捕獲セラルヘキモノトス其外燈臺用ノ船船ハ一般航海ノ安全ヲ保護スルモノナルニ由リ近世ノ慣例上之ニ妨害ヲ加ヘサルモノハ如ク日清戰爭中我國捕獲規程中ニ於テモ之ニ中立ノ待遇ヲ與ヘタリ

又天候ノ爲メ海上難破ヲ避ケ若クハ糧食欠乏ニ迫リテ敵國港灣ニ入りタルトキハ寛大ノ待遇ヲ受クルコトアリテ千七百四十六年英國軍艦ノ難破ヲ避ケハ「ナ」港ニ入り降服セントシタルニ獨逸州ハ之ヲ恢復セシメタル後ベルロニダス迄保護ノ免狀ヲ與ヘテ立去ラシメ千七百九十九年普國船「デアナ」號風浪ノ爲メ「ダンカーク」港ニ入りタルニ佛國政府ハ之ヲ本國ニ送還シ又其後英國砲艦ノ「ロア」河口ニ難破ヲ避ケタルニ佛國ハ無事ニ退去セシメタリ然ルニ千八百年佛國政府ハ法令ヲ以テ斯ク敵國難破ノ船船ヲ立去シムルコトヲ禁シタルニ由リ

同年英國船舶「デアナ」號同一ノ事情ニ由リ佛國港灣ニ入りタルヲ沒收セリ  
斯ク風浪又ハ難破ヲ避クル爲メ官船又ハ私船ノ敵國港内ニ入ルニ當リテハ之  
ヲ沒收スヘキモノナルヤ否ヤニ付キ實例並ニ學說モ一定セズシテ正義人情又  
ハ寬大等ノ點ヨリシテ其船舶ノ不幸ニ乘シテ利ヲ貪ルノ不正ヲ説ク者アレト  
モ其說ノ當否ハ姑ク措キ凡テ敵國官船中ニ於テモ軍艦ナトノ場合ニ於テ無條  
件ニシテ立退カシメ自國ニ取リ畏ルヘキ攻撃ノ材料ヲ敵國ニ返スハ寬大モ亦  
タ其度ヲ失スルモノニシテ之ヲレテ立退カシムルハ決シテ交戰國ノ義務トナ  
シ能ハサルヤ明カナルカ如シ

## 第二項 敵國ノ私有船舶

敵國人民ノ船舶及其私有ノ搭載品ハ近世ノ戰爭ニ於テ交戰國ノ互ニ拿捕セザ  
ラシコトアリ又學說ニ於テモ其捕獲ヲ熱心ニ批難スルモノニシテ北米合衆國  
ニ於テハ千七百八十五年普國トノ條約ニ於テ同一ノ規定ヲ設ケタルモ其後ノ  
條約ニ於テハ同一ノ規定ヲ削リタリシカ千八百二十三年モノロー大統領ノト  
キ國務卿「ダチス」氏ハ英佛露ノ三國ニ照會シ戰爭中凡テ敵國商船及商品ヲ列

國條約ヲ以テ拿捕セサルコト、爲サント企テタルモ英佛兩國ハ之ニ同意セス  
軍ニ露國ノミ米國ノ意見ニ賛成シタルモ外國一般ニ之ヲ承認スルニ至ル迄ハ  
其實行ヲ拒ミ千八百五十六年巴里會議ニテハ私船ヲ拿捕ノ用ニ供スルコトヲ  
禁シタルモ敵國ノ私有船舶及私有ノ搭載品ヲ拿捕スルコトヲ禁セザリシニ由  
リ米國ハ之ニ加盟セザリシハ前述ノ如ク米國ノ意見ニハ露獨等ノ諸國ハ賛成  
セルモ主トシテ其國ノ反對ニ由リ遂ニ實行セラル、ニ至ラス然ルニ諸國ノ實  
際ニ就キ觀ルトキハ千八百六十五年伊國政府ハ海上法第二百一十一條ニ於テ交  
戰國相互主義ニ出ルニ非サレハ敵國ノ商船ヲ拿捕スヘカラスト規定シ千八百  
六十六年伊普兩國ハ埃國トノ戰爭ニ於テハ交戰國互ニ宣言ヲ以テ交戰國ニ於  
テ自國船舶及積荷ヲ捕獲スルニ非サレハ自國ニ於テモ敵國商船及積荷ヲ捕獲  
スヘカラスト爲シ戰爭中私有船舶及其私有財產ヲ捕獲シタルコトナク又米國  
ハ千八百七十一年伊國ト條約ヲ締結シテ兩國ハ戰爭ニ際シテ封港ヲ破リタル  
カ又ハ戰時禁制品ノ外ハ交戰國ノ私有其他財產ヲ拿捕セサルコトヲ約定シ千  
八百七十年普佛戰爭ニ於テハ普國政府ハ法令ヲ以テ相互主義ニ基カス單獨的



ニ戰爭中佛國私有船舶ヲ拿捕スルコトヲ禁シタリシカ佛國ニ於テハ依然普國ノ商船ヲ拿捕シタルヲ以テ千八百七十一年一月普國政府モ法令ヲ改正シ佛國私有船舶ヲ拿捕スルコト、モリ以上ハ戰爭中敵國私有財産ヲ拿捕セサルコト、爲サントシタルモノ、實例ニシテ千八百六十六年伊普奧戰爭ノ如キハ其拿捕ヲ行フコトナク戰爭ヲ爲シタルコトアレトモ方今ニ至ル迄私有財産ノ拿捕ヲ禁セントスル國家ハ米國ヲ合セテ四大國ニ過キス就中伊國ヲ除キ他ノ三國ハ當時海軍ノ力微弱ナリシニ由リ自國ノ政略上此道理ヲ唱ヘタルモノ、如シ而シテ又學說ニ於テ私有財産ヲ拿捕スヘカサルモノ、理由ハ第一、戰爭國家トハ國家トノ爭ニシテ私人間ノ爭ニ非ストシ國際公法上私人ノ財産ハ戰爭中侵スヘカサル原則ニ適セス第二、陸上ニ於テ私有財産ノ安全ナルニ保ハラス海上ニ於テ私有財産ノ掠奪ハ野蠻的行爲タリ第三、項ニ列國ノ私船ヲ拿捕ノ用ニ供スルヲ禁シタル今日ニ於テハ一步ヲ進メテ私有財産ヲ全ク拿捕スルコトヲ禁スルハ一舉手ノ勞ニ過キスシテ社會道德ニ利益ヲ與フルコト極メテ大ナル結果ヲ生スヘシト云フニ在リテ之ニ反對スル者ハ第一、戰爭ハ單ニ國家間ノ爭

ニシテ其國私人ノ敵人タル關係ナシトスルハ國際法上ノ論理ニ背キ又事實ニ反シ第二、陸戰ニ於テモ敵國私有財産ニ徵發課金等ヲ行ヒ得ルト同シク海上捕獲ハ猶ホ徵發課金ニ異ナル所ナク戰爭ノ權利トシテ敵國私有財産ヲ攻撃破損スルコトヲ得ヘキモノタルニ係ハラス之ヲ捕獲セテ軍費ヲ出サシムルハ既ニ業ニ寛大ノ行爲タリ第三、列國ノ私有財産ノ拿捕ヲ禁スルハ一舉手ノ勞ト假定スルモ既ニ巴里宣言ニ由リ中立國ノ船舶ニ在ル敵國財産ハ拿捕ヲ免ル、コトナレハ若シ今日ノ形勢上敵國ノ商業ヲ充分ニ攻撃シ得ル國アリトスルモ敵國商業者ノ其財産ノ捕獲ヲ免ル、爲メ之ヲ中立國國旗ノ保護ノ下ニ置クノ出資ト努力ヲ探ラシムルハ是亦一投足ノ容易ナルカ如シト云フニ在リテ此議論ノ孰レヲ正當トスヘキモノナルヤハ暫ク論セス戰爭中敵國私有財産ニ對シテ捕獲ヲ行フヘカラストスル學說ハ近來大ニ其度ヲ高メ之ヲ國際公法ノ法則トセントスルハ學者一般ニ採ル所ノ說ニシテ千八百七十五年「グ」府ノ國際法協會ノ議決ニ於テモ敵國ノ國旗ノ下ニ在リテ航海中ナル敵國私有財産ハ千八百六十六年普、奧、伊三國ノ宣言ニ從ヒ商船及其搭載品ハ侵スヘカサルコトヲ

列國一般ニ認メ戰時禁制品ナルカ又ハ宣言ニ係ル實力上ノ封港ヲ破リタルモノヲ除クノ外ハ捕獲スヘカラサルニ至ルヲ希望ス但シ海戰並ニ陸戰ニ關スル一般ノ原則ニ從ヒ商船ト雖モ直接又ハ間接ニ戰爭行為ニ干與シ又ハ干與セシトスルモノナルトキハ前項ノ取扱ヲ受クルコト能ハスト爲シ又千八百八十三年「チュレン」府ニ於ケル同協會ノ決議ニテモ海上捕獲ニ關スル國際公法ノ法則トシテ私有財産ハ封港ヲ破リタル場合ノ外ハ相互主義ニ基キ侵スヘカラストノ一條ヲ設ケタリ而シテ「ヘーグ」會議ニ於テハ單ニ國際公法ノ變更ニ關スル希望ヲ述ヘタルニ止マルヲ以テ英國代表者ノ反對アリタルニ係ハラヌ投票ナクシテ決議モ通過シタルコトナレトモ「チュレン」會議ニ於テハ英國代表者一名ヲ加ヘ七名ニ對スル十名ノ多數ニ由リ票決セラレ更ニ又千八百八十七年「ハイデルベルヒ」府ニ於ケル國際法協會ニ於テモ同一ノ議決ヲ爲シタルヲ以テ觀ルモ此學說ノ勢力アルヲ證スルニ足ルヘシ而シテ列國ノ未タ之ヲ國際公法ノ法則ト爲サル所以ノモノハ主トシテ英佛兩國ノ之ニ反對スルニ由ルモノニテ「ロートレンス」ノ說ク所ニ據レハ佛國ハ其海軍ト露國海軍ヲ加フレハ事アル日ニ當リテ

英國商業ヲ攻撃スルヲ唯一ノ上策ト考フルニ由リ此學說ニ同意ヲ表セサルヘク英國モ亦タ當初ヨリ之ニ反對ニシラ佛國革命戰爭及ナポレオン戰爭ニ於テ佛國ノ商業ヲ零落セシメタルノミナラス私有船ヲ拿捕シ自國商船一百萬噸ヲ一時ニ増加セタルコトナレハ英國ハ戰爭ニ於テ私有船船ノ拿捕ヲ禁シテ自國商船ノ安全ヲ保護スルヨリモ寧ロ強大ナル海軍ヲ以テ敵國ノ商業ヲ滅盡スルノ權利ヲ保護セントスルモノナリト云ヘリ

現行國際公法ノ法則トシテハ以上ノ理由アルニ係ハラヌ中立國領海以外ニ在ル敵國ノ私有船船ヲ交戰國ノ捕獲シ沒收ヲ行ヒ得ヘキモノトス而シテ拿捕船船ノ果シテ敵國ニ屬スルヤ否キハ其船船ニ掲タル國旗並ニ船籍證書等ニ據リ決スヘキモノタリ然レトモ航船ハ時トシテ偽リノ國旗ヲ掲クルコト無キニ非ス隨テ交戰國軍艦ハ戰爭中交戰國又ハ中立國ノ商船其他私有船船ヲ臨檢スルノ殊權ヲ有スルモ時トシテハ船籍ノ登記ヲ偽リ敵國船船ニシテ他國ヨリ正式ノ船籍證書ヲ受ケ居ルモノナキニ非ス此點ニ付キ千八百七十四年「キニガ」反亂者ノ船船「バーダニア」號ハ米國ノ登記ヲ受ケタルモノナリシカ西班牙軍



艦ノ爲ニ捕獲セラレ米西間ノ問題ト爲リ米國政府ハ船舶登記ノ證書ニ關シテハ臨檢ノ軍艦ト其商船間ニ於テハ其證書ニ據リ拿捕ト否トヲ決スルモノニシテ若シ船舶證書ノ眞偽ニ故障アルトキハ外交問題ト爲ス外ナシトモ意見ヲ主張シタルモ此意見ノ當否ニ付テハ議論アル所ニシテ「ワルセー」(ダナ等)ハ斯ル船舶ハ交戰國軍艦ノ捕獲シ得ヘキモノト爲セリ又斯ル船舶ノ詐偽ヲ防ク爲メ佛國ニテハ戰爭中敵國人ノ船舶ヲ中立國人ニ賣渡スコトヲ認メス英米兩國ニ於テハ其賣買ヲ全然禁スルニ非サレトモ斯ル賣買ニ付テハ充分ニ審理シ戰爭ノ捕獲ヲ免ルハ爲メ偽リノ賣買ナルトキハ依然敵國船舶ト爲シ航海中ニ在ル船舶財産ハ戰爭ニ際シテ敵國人ノ中立國人ニ賣却ヲ認メス之ヲ無効トシ中立國人ノ船舶ニシテ敵國人ノ船長及水夫ヲ有シ敵國ノ商業ニ從事スルモノ若クハ中立國船舶ニシテ常ニ敵國國旗ノ上ニ航海シ其通行券又ハ商業免狀ヲ以テ航海スルモノハ敵國船舶ト看做セリ隨テ日清戰爭中我國捕獲規程第二條ニ於テモ左ノ船舶ハ敵船トシテ拿捕スルコトヲ得ルモノト爲セリ

一 運送船トシテ敵國政府ノ傭入レタル船舶其傭入ハ敵國政府ノ脅迫ニ依

ル時モ亦同シ

二 敵國ノ旗章及通航券ヲ有スル船舶

三 敵國政府ノ免狀ニ依リ航海スル船舶

四 何レノ國籍ニ屬スルヲ問ハス敵國軍艦保護ノ下ニ航海スル船舶

五 假令船舶證書面ハ帝國臣民若クハ同盟若クハ中立國ノ船ナルモ一部又

ハ全部敵ノ所有ニ係ル船舶

六 外見ハ帝國同盟國若クハ中立國ニ住所ヲ有スル人ノ所有船舶ナルモ其

船舶ハ出港後ニ敵ヨリ買受ケタルモノニシテ尙ホ進行中ニ在リ未タ其人

ノ占有ニ歸セザルモノ

七 外見ハ帝國同盟國若クハ中立國ニ住所ヲ有スル人ノ船舶ナルモ若シ其

所有者開戰前豫メ開戰ヲ慮リテ該船舶ノ所有權ヲ敵ヨリ得タルモノナル

トキハ取引ノ善意ニシテ且既ニ完了セル證明充分ナラサルモノ

又同規程第三條ニ於テハ拿捕スヘカラサル敵船トシテ左ノ四種ヲ列舉セリ

一 沿岸漁船

## 二 學術慈善救法ノ爲メニ航行スル船舶

## 三 病者負傷者ヲ輸送セル船舶

## 四 燈臺用船

此四種ノ拿捕スヘカラスル敵國船舶中ニ就キ學術慈善救法ノ爲メノ船舶病者負傷者ヲ輸送セル船舶ニ付テハ前述セル所ニテ別ニ説明ヲ要セス燈臺用船ニ付テハ官有船舶ノ項ニ於テ既ニ説明シタルカ如シ唯茲ニ説明ヲ要スヘキハ沿岸漁船ニシテ漁業船ヲ戰爭中捕獲セサルノ行爲ハ主トシテ佛國ノ取り來リタルモノニシテ中古ニ於テ英佛兩國ノ戰爭中ハ互ニ英吉利海峡ニ於テ漁業船ニ障害ヲ與ヘタルコトナク千五百四十三年乃至千五百八十四年佛國政府ハ自國海軍將官ニ法令ヲ以テ敵國ト相互主義ニ基キ漁業船ヲ拿捕スヘカラストシタリシカ第十七世紀ノ初ニ至ル迄ハ果シテ如何ナル程度ニ於テ漁業船ニ此特權ノ與ヘラレ居タルヤ今日之ヲ考フヘカラス千六百八十一年及千六百九十二年ノ佛國法令ニテハ漁業船ヲモ拿捕スヘキコトナシ北米合衆國獨逸戰爭迄ハ英佛兩國ハ互ニ敵國漁業船ノ捕獲ヲ行ヘリ然ルニ同戰爭及革命戰爭中ハ交戰國互

ニ其捕獲ヲ爲テ、リシコトナルカ千八百年佛國ハ漁業船ヲ「フラッセング」ニ於テ英國艦隊ニ對シ放火ノ用ニ供シ「プレスト」ニ於テハ其水夫ヲ佛國軍艦ノ使用ニ充ツル爲メニ用ヒ又漁業船ノ五百乃至六百艘ハ英國進撃ノ船舶ト爲サシメタルニ由リ英國政府ハ其拿捕ヲ行ヒ戰爭中漁業船ヲ捕獲セサルノ行爲ハ單ニ戰爭ノ權利實行ノ寬典ニ出テ人情ニ由リタルモノニ過キサレハ何時ニテモ相當ノ理由アルニ於テハ其捕獲ヲ實行セ得ヘキコトヲ唱ヘテボレオン帝ハ其捕獲ハ文明國ノ慣例ニ反對スルコトヲ論セリ其後ナボレオン戰爭中ハ漁業船ヲ捕獲シタルノ形跡ナク米國ハ米星戰爭中ニ於テ佛國ハ「クリミヤ」戰爭埃獨戰爭中ニ於テモ敵國漁業船ヲ捕獲シタルコトナシ之ヲ要スルニ漁業船ヲ戰爭中其業ニ從事セシムルノ理由ハ此等細民ハ戰爭ニ關係ナキ食料ヲ交戰國人民ニ供給スルニ過キサルノミナラス海上ノ風波ヲ冒シテ小ナル生計ヲ營ムニ係ハラス戰爭ニ由リ其業ニ妨害ヲ與ヘ其船舶器具ヲ沒收スルハ甚シキ困難ヲ此等小民ノ生活ニ與フルニ由リ人情之ヲ爲スニ忍ヒサルニ出テタルモノトス而シテ漁業船ニ此特權ヲ與フルノ觀念ニ付キ佛國ニテハ之ヲ交戰者ノ義務ト爲シ學者中カ

ルボー」(「フター」)「ブルンチユリー」モ亦タ之ヲ國際公法上ノ法則トシ英國ニ於  
 テハ國際上ノ好誼ニ由ルモノト爲シ決シテ義務ニ非ストシ米國ニ於テモ千七  
 百八十五年普國トノ條約千七百九十九年同國トノ條約ニ於テ其特權ヲ明記シ  
 タルヲ見レハ未タ其特權ヲ國際公法上絶對的ノ法則ト爲サ、ルモノ、如ク特  
 ニ鯨獵船ノ如キ總テ大洋ノ漁獵ニ從事スルモノハ其特權ナキコトハ佛國學者  
 ヲ除クノ外ハ一般ニ異論ナキ所ニシテ我捕獲規程ニ於テモ沿岸漁船ト爲シタ  
 ル所以ナリ又沿岸漁業船ト雖モ千八百年英國ノ佛國漁船ヲ拿捕シタルカ如ク  
 戰爭ニ關係スル行爲アルニ於テハ固ヨリ拿捕ヲ免カル、コト能ハス

### 第三項 敵國ノ搭載品

海上捕獲ニ關スル歐洲中古ノ法則ニテハ敵國ニ屬スル物品ハ敵國船又ハ中立  
 國船ニ搭載スル場合ニ區別ナク悉ク交戰國ニ由リテ拿捕沒收スルヲ得ルモノ  
 トシ敵船ニ敵物ヲ搭載スル時ハ船舶物品共ニ沒收シ中立國船ニ敵國物品ヲ載  
 スルトキハ捕獲審檢所ニ於テ其物品ヲ沒收シテ之ヲ賣却シ其代價中ヨリ船舶  
 所有者ハ其物品ノ運賃ヲ得ヘク尤モ中立國船ト雖モ例ヘハ封港ヲ破リタルカ

如キ戰時ノ法則ヲ犯シタルトキハ沒收サルヘキモノナレトモ普通ノ商業航海  
 ニテハ敵國物品ヲ搭載スル場合ニ限リ拿捕抑留セラル、ノミニシテ沒收ヲ免  
 レ然モ其物品ノ運賃ヲ得タルモノトス是レ有名ナル「コンソラト」、デル、マール」  
 法ノ規定ニシテ英米兩國ハ之ヲ普通法ノ一部トシ歐洲大陸諸國モ總テ此法則  
 ニ據リタルコトナルカ時勢ノ變遷ト共ニ第十七世紀以來中立國船舶ニ搭載スル  
 敵國物品ヲ沒收セサル慣例ノ漸ク生スルニ至リ遂ニ千八百五十六年巴里宣言  
 第二條ニ於テ自由船舶自由物ノ原則ヲ規定シ敵國物品ト雖モ戰時禁制品ヲ除ク  
 ノ外ニ中立國船舶ニ搭載スル場合ニハ之ヲ拿捕スヘカラサルコト、爲シ米國  
 ハ同宣言ニ加盟セサルモ南北戰爭ニ於テハ兩軍共ニ中立國船舶中ニ在ル敵ノ  
 物品ヲ互ニ拿捕シタルコトナク今日ニ於テハ假令巴里宣言ニ加盟セサル國  
 ト雖モ戰爭ノ際多數ノ中立國ノ船舶ニ對シテ古代ノ法則ニ由リ敵國ノ物品ヲ  
 捕獲スルコトハ諸國一般ノ批難ヲ來シ到底行フヘカラサルニ至リタルヲ以テ  
 巴里宣言ノ規定ハ自カラ實際國際公法ノ法則ト爲リタルモノト看ルノ外ナク  
 隨テ戰爭中敵國ノ物品ヲ拿捕シ得ヘキ場合ハ單ニ敵國船舶又ハ自國船舶ニ搭

載スルトキニ限ルニ至レリ又近來ノ慣例中ニ就キ時トシテハ戰爭ノ當初ニ於テ中立國又ハ敵國ヨリシテ自國港灣ニ向ケ航海中ニ在ル敵國船舶若クハ未ダ自國ニ向ケ出帆セサルモ開戦ノ當時自國ニ向ケ來ランカ爲メ積荷ヲ爲シタル敵國船舶ハ一定ノ時日間捕獲セサルノ特典ヲ與フルコトアリテクリミヤ戰争ニ於テハ英國ハ樞密院令ヲ以テ開戦ノ當時他國ヨリ英國領内ニ向ケテ出帆シタル露國商船ハ其到達港ニ入リ積荷ヲ卸シ直チニ立退カシメ又英國艦隊ノ海上ニ於テスル船舶ニ邂逅スルモ封港セサル敵國港灣ニ向テ其航海ヲ繼續セシムルコトヲナシ佛國モ戰爭中之一ノ規定ヲナシ千八百七十年獨逸船舶ノ開戦ノ當時佛國港ニ向ケ積荷シタルモノハ時日ヲ限ラス佛國港ニ入リ獨逸ノ港ニ歸航ニ付キ通行券ヲ與ヘ千八百七十七年露土戰爭ニ於テモ土耳其商船ハ露國港内ニ於テ積荷ヲ爲シタルモノヲ自由ニ立退クコトヲ許セリ凡テ海上捕獲ヲ行フニ當リテハ敵國船舶及敵國人民ノ搭載品ト否トヲ捕獲審檢所ニ於テ明カニ區別スルノ必要アリテ如何ナルモノヲ敵國船舶ト爲スヘキヤハ前述セルカ如シ而シテ搭載品ノ性質ニ付テハ方今文明國ノ慣法ニ由リ敵

ニ利シ又ハ害スルノ意思アルコトヲ要スルカ故ニ假令其事ノ不實ナルヲ知ルモ裁判ニ影響ヲ生スヘキモノニ非スト信シテ陳述ヲ爲タル場合ニ於テハ罪ヲ構成スルコトナレ但本罪ハ文書偽造罪ト趣ヲ異ニシ裁判官ノ訊問シ又ハ鑑定通譯ヲ命シタル事項ハ概テ犯罪ノ有無又ハ輕重ヲ決スルノ要點ニ關シ證人鑑定人通事タル者ハ至愚ニ非ナル以上ハ之ヲ知ラサルコト無シ隨テ不實タルコトヲ知テ之ヲ爲ス場合ニ於テハ概ネソレ自身裁判ヲ誤ラシム可キ結果即チ害ヲ生セシムルノ意思ナシト云フヘキ場合殆ト無カルヘシ人或ハ余輩ト同シタ害ヲ生セシムルノ意思若クハ裁判ヲ誤ラシムルノ意思ヲ要スラフコトヲ揭クルニモ拘ハラズ本要素ハ單ニ總則ノ適用ニ外ナラズ隨テ眞實ナリト信シテ陳述シタルニ意外ニモ不實ナリシトキハ茲ニ所謂意思ナキモノニシテ無罪タリト説明スル者アリト雖モ是レ本要素ノ意味ハ勿論總則ノ適用ヲ言フコトヲモテ解セサルモノナリ如何ニテレハ論者ノ説明ハ恰モ殺人罪ノ被告ハ人ヲ殺傷スルノ意思タモナキ時ハ殺人罪トシテハ無

罪タリト云フト一般説明ヲ要セサルハ勿論タルノミナラス總則ノ罪ヲ犯ス意ナシトハ漠然犯罪ノ意思ナシト云フノ義ニ非ス各犯罪カ必要トシタル意思ナシト云フノ義ニシテ總則ノ適用ヲフコトヲ云フトキハ如何ナル犯罪モ此カ適用ヲ受ケサルコト無ケレハナリ

然ラハ苟モ裁判ヲ誤ラシメ不正ニ當事者ヲ利シ又ハ害スルコトヲ知リテ不實ノ證言鑑定又ハ通譯ヲ爲シタル場合例ハハ財物ヲ詐取セラレタル者カ自己ノ疎虞ヲ蔽ハシカ爲メ詐取セラレタルコトナシト詐リ又ハ證人カ自ラ證言ス可キ本件ノ共犯人隨テ被告人タル可キ者タリシカ爲メ犯罪ノ事實ヲ掩蔽シタル場合ノ如キ假令自己ノ利益ヲ保護セシカ爲メ偽證ヲ爲シタル場合ト雖モ犯罪ヲ構成ス可キヤ曰ク本問ハ場合ヲ分テ説明セサル可カラズ若シ其證人タル者カ刑事訴訟法第二百二十三條及第二百二十四條ニ該當ス可キ者タルトキ若クハ尙ホ一層無能力タル可キ理由ノ存スル被告人其人假令證人ノ名義ヲ以テスルモタルトキハ先ニ説明シタル所ノ理由ニ依リ當ニ無罪タリト雖モ若シ其他ノ者タルトキハ自己ノ利益ヲ保護セシカ爲メタルト否トニ關

セス常ニ有罪タリ蓋シ私益ハ公益ノ犧牲タラサル可カラサレハナリ(本問證人カ被告人タリシ場合ニ關シ學者或ハ被告人ハ自衛ノ權即チ辯護權アルカ故ニ無罪タリト云フカ如キハ漠然タル獨斷定數ニシテ採ルニ足ラス)

## 第二款 偽證罪ノ處分

本罪ノ處分ハ法律之ヲ刑事ニ關スルモノト民事商事行政裁判ニ關スルモノト二者ニ通スルモノトニ分テリ依テ追次之ヲ説明セム

### 第一項 刑事ニ關スルモノ、處分

刑事ニ關スルモノ、處分ニ付キ法律ハ先ツ之ヲ被告人ヲ曲庇セント欲スル意思ニ出テタル場合ト陷害セント欲スル意思ニ出テタル場合トニ分チ更ニ之ヲ偽證ニ依テ被告人刑ヲ免レ又ハ受ケタル場合ト然ラサル場合トニ區別セリ

#### 第一段 被告人ヲ曲庇セント欲スル意思ニ出テタル場合

(一)被告人正當ノ刑ヲ免レサリシ場合  
是レ第二百十八條ノ規定セル所ナリ左ニ該條法文ニ基キ之ヲ説明ス可シ  
(二)曲庇トハ佛語「per」爲メニ又ハ利益ニノ義即チ不正ニ被告人ヲ利スルノ義ニ

シテ或刑ヲ受テ可カリシ被告人ヲレテ不正ニ輕キ刑ヲ受ケシメ又ハ全ク之ヲ免レシメントスルヲ云フ(一)重罪、輕罪、違警罪トハ何シヤ、單ニ法律ノ字而ヨリ云フトキハ犯罪ノ性質カ重罪、輕罪又ハ違警罪タル可キ者ト云フノ義ニシテ例ヘハ假令單純ナル窃盜隨テ輕罪事件ノ被告人トシテ訴追セラレタル者ト雖モ證人ニ於テ其強盜事件ナルヲ知テ之ヲ掩蔽シタルトキハ犯罪ノ性質カ重罪タル可キモノヲ曲庇シタルモノナルカ故ニ重罪ヲ曲庇シタルモノト云ハサル可カラサルカ如キモ(イ)幕氏佛文第一草案第二百五十一條第二項ニ違警罪、輕罪、重罪ノ訴追ニ關シ云々トアリテ之ヲ反譯シタル日本文章案ハ全ク明文ト同一ナルト(ロ)若シ前者ノ如ク解スルトキハ例ヘハ同一輕罪事件ノ被告人ニ對スル者ナルニ或證人ハ其重罪ヲ知ルニ拘ハラス之ヲ曲庇シタル爲メ重罪ヲ曲庇シタル者トシテ罰セラレ或證人ハ其輕罪ヲ知ルニ拘ハラス之ヲ曲庇シタル爲メ輕罪ヲ曲庇シタル者トシテ罰セラレ、等極メテ奇觀ヲ呈スルトハ曲庇トハ裁判所ヨリ訊問又ハ要求セラレタル事項ニ對スルノ語ニシテ裁判所ヨリ訊問又ハ要求ス可キ事項ハ現ニ訴追セラレツ、アル事項ヲ標目トスルモノナルトニ依リ余

ハ明文ハ全ク草案ト同シク重罪、輕罪、違警罪トシテ訴追セラレタル犯罪事件ニ於テノ義ト解ス可キモノニシテ前例ニ於テ證人カ窃盜トシテ訴追セラレタル事件ニ付キ其知レル強盜事件ヲ掩蔽シタル者ハ輕罪ヲ曲庇シタル者ト云フ可シト信ス(二)右ノ如ク我國ニ於テモ佛國刑法第三百六十一條及ヒ第三百六十二條(重罪、輕罪、違警罪ニ於テ)ト同シク重罪、輕罪、違警罪事件トアルヨリシテ佛國ニ於ケル有力ナル學說ト共ニ豫審ハ公判ノ如ク重罪、輕罪、違警罪等ノ別ヲ爲サス專ラ免訴ス可キヤ若クハ何レノ公判ニ付スヤノ準備調査ヲ爲スモノナルカ故ニ豫審ニ於テハ偽證罪ヲ成立セスト云フ者アル可キモ佛國ニ於テ本說ノ有力ナル所以ハ畢竟佛國ニ於テハ豫審判事ハ司法警察官ノ一人ニシテ其公廷ハ所謂裁判所ト云フ可キモノニ非サルカ故ナルノミナラス現ニ佛文第一草案第二百五十一條ノ明文ニ公判又ハ豫審ニ於テ「トアリテ之ヲ明ニスルト同時ニ我國ニ於テハ豫審判事ハ純然タル裁判官ニシテ其公廷ハ所謂裁判所ナルカ故ニ本說ハ我國ニ於テハ到底半文ノ價值ヲモ有セス四違警罪ノ本條ニ依テ處斷ストハ違警罪ノ偽證罪即チ第四百二十五條第十四ニ依リ三日以上十日以下ノ拘留ニ



處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處スルノ義ナリ  
(二)被告人正當ノ刑ヲ免レタル場合  
是レ第二百十九條ノ規定スル所ナリ亦法文ニ依リ説明セム

(一)法律ハ刑ヲ免レタルトキトアルカ故ニ一部又ハ全部ノ免刑ノ言渡又ハ免訴ノ決定ヲ受ケタルモ爲メニ一部又ハ全部ノ免刑又ハ免訴ノ結果ヲ生セザリシ場合又ハ豫審ニ於テ輕キ決定ヲ受ケタルハ過キサルトキハ前條ニ入ル可シ然レトモ法律ハ單ニ正當ノ刑ヲ免レトアリテ必スモ無罪又ハ免刑ト爲リシコトヲ要セサルカ故ニ偽證ノ爲メ有罪タル可キ者カ無罪ト爲リ刑セラル可キ者カ免刑ト爲リタルトキハ勿論重タ刑セラル可キ者カ輕タ刑セラルトキモ亦前條ニ照シテ各一等ヲ加フ可ク前例ニ於テ被告人カ強盜ノ刑ヲ受ク可カリシニ單ニ竊盜ノ刑ヲ受クルニ止マリタルトキハ前條第二項ノ刑即チ二月以上二年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ一等ヲ加ヘラル可キモノトス  
(二)違警罪ニ付テハ第四百二十五條第十四ニ於テ本條ニ依ルノ明文アルカ故ニ該條ト本條及ヒ前條トヲ適用シテ處斷スルコトヲ要ス

第二段 被告人ヲ陷害セントスル意思ニ出テタル場合

(一)被告人刑ヲ受ケタル場合  
是レ第二百二十條ノ規定セル所亦法文ニ基キ説明ス可シ

(二)陷害トハ佛語(Contre)對抗シテ又ハ不利益ニノ義即チ不正ニ被告人ヲ害スルノ義ニシテ全タ刑ヲ受ク可カラス若クハ輕キ刑ヲ受ク可カリシ被告人ヲシテ不正ニ刑ヲ受ク又ハ重キ刑ヲ受ケシメントスルコトヲ云フ(二)重罪、輕罪、違警罪トハ前ノ場合ノ如ク重罪、輕罪、違警罪事件ノ義ニシテ其然ラサル可カラサル理由亦前ノ如シ

(三)被告人刑ヲ受ケタル場合  
本場合ニ付キ法律ハ更ニ之ヲ(一)偽證ニ依テ被告人カ死刑以外ノ刑ニ處セラレタル場合ト(二)死刑ニ處セラレタル場合トノ二ニ區別ス  
其一 被告人死刑以外ノ刑ニ處セラレタルトキ  
是レ第二百二十一條ノ規定セル所ナリ其第一項ト第二項トニ付キ分説セム  
甲 第一項ニ付テハ(一)法律ハ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後トアル

同時ニ第二項刑期限内ニ於テ偽證罪發覺シタルトキハ反坐ノ刑ヲ輕減スル  
規定アルトニ依リ本項ハ偽證ノ爲メ被告人カ不當ナル刑罰ノ執行ヲ受ケタ  
ル時以後ノ處分法ヲ規定シタルモノニシテ其以前ニ保ルトキハ假令偽證ノ  
爲メ不當ナル刑ノ宣告ヲ受タルモ本條ニ入ラスシテ前條ニ入ル可キモノト  
ス(ロ)反坐トハ被告人カ受ケタル刑ト同一ノ刑ニ處スルノ義ナリ(ハ)被告人ノ  
受ケタル刑隨テ反坐ス可キ刑第二百二十條ニ記載スル所ノモノヨリモ輕キ  
トキハ同條ニ依テ處斷ストハ例ヘハ無罪ノ被告人ヲ違警罪ニ陷害シ被告人  
違警罪ニ處セラレタル場合ニ於テハ反坐ス可キノ刑第二百二十條ニ記載ス  
ル所ノモノヨリモ輕キカ故ニ該條違警罪ヲ陷害シタル場合ノ刑ニ照シ一月  
以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加スルカ如ク被  
告人陷害ニ依テ罰金ニ處セラレタル場合ニ於テモ亦罰金ハ體刑ヨリ輕キモ  
ノトスル故ニ同一ノ結果ニ出ツ可シ(ニ)偽證罪ハ常事犯罪ナリト雖モ被告人  
ヲ陷害シテ國事犯ノ刑ヲ受ケシメタル場合ニ於テ反坐ノ刑ニ依ル可キ時ハ  
國事犯ノ刑ニ處ス可ク之ト對當スル常事犯ノ刑ニ處ス可キモノニ非ズ單ニ

反坐トナルカ歟ナリ

乙 第二項ニ付テ(イ)本項ハ被告人カ不當ナル刑ノ執行ヲ受ケ丁ラサル間ニ  
偽證罪發覺シタルトキノ處分法ヲ定メタルモノトス(ロ)現ニ經過シタル日數  
ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得トアルカ故ニ裁判官ハ必スモ本項  
ニ依リ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ要セス事情ニ依リ經過シタル日數以上ノ  
刑ヨリ被告人カ宣告セラレタル刑期マテノ間ニ於テ適當ノ刑ヲ科スルコト  
ヲ得可シ(ハ)減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ストアルカ故ニ例ヘハ偽  
證罪ノ爲メ十年ノ重懲役ニ處セラレ一年ヲ經過シタルトキ偽證罪發覺シタ  
ルトキハ一年ノ重懲役ニ處スルコトヲ得ス第二百二十條ニ依リ二年以上五  
年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加セザル可カラズ

其二 被告人死刑ニ處セラレタルトキ

是レ第二百二十二條ニ規定セル所ニシテ(一)第一項ハ死ニ陷ルノ目的ナキ場合  
ヲ第二項ハ其目的アル場合ヲ規定ス(二)而シテ前段ノ死刑刑ニ入ラサルニ後段  
ノ死刑刑ニ入ルモノハ前段ハ殺意ナキモ後段ハ殺意殊ニ謀殺ノ意アレハナリ



(三)第一二項前段ハ何レモ死刑ヲ執行ヲ了リタル後ニ偽證罪發覺タル場合ヲ第二項後段ハ確定判決以後未タ死刑ヲ執行セサル間ニ偽證罪發覺シタル場合ヲ規定ス隨テ假令死刑ノ宣告ヲ受タルモ未タ確定セサル間ニ發覺シタルトキハ第二百二十條第一號ニ依ラサル可カラス

前段ハ被告人ヲシテ不當ニ刑ヲ免レ又ハ免レザル者本段ハ不當ニ刑ヲ受ケ又ハ受ケシメタル者ニマテ二者均シク公益ヲ害スルニ拘ハラヌ比較的 본段ノ刑罰重キヲ加フル所以ハ彼ハ單ニ國家全般ノ公益ヲ害スルニ過キサレモ此ハ國家全般ノ公益ヲ害スルと同時に個人ヲモ害スルノミナラス我法律一般ノ主義ニ於テハ百々有罪者ヲ無罪タラシムルヨリモ寧ロ一ノ無罪者ヲ罰スルコトヲ忍ルレバナリ

## 第二項 民事商事行政裁判ニ關スル者ノ處分

第三百三十三條ハ此處分ヲ規定シ其結果ノ如何ヲ問ハス凡テ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スル事トセリ畢竟刑事ノ如ク人ノ身上ニ關セシメテ其害取テ重大ト云フヲ得サルカ故ナル可シト雖モ

或學者ノ主張スルカ如ク刑罰稍輕キニ失スルニ威アリト謂フ可シ

人或ハ刑事ニ付テハ曲庇又ハ陷害ノ文字アルニ拘ハラス本罪ニ付テハ之ヲ關如スルカ故ニ惡意ハ勿論害ヲ生スヘキ危險アルコトモ亦之ヲ要セス單ニ不實ナルコトヲ知リナカラ不實ノ證言鑑定通譯ヲ爲スノミヲ以テ罪ヲ構成スト云フト雖モ前述ノ如ク本罪ニ限リ惡意又ハ實害ヲ要セサル理由ヲ存ス可キモノナキカ故ニ余ハ之ヲ採ラス

## 第三項 刑事ト民事商業行政裁判トニ共通

法律ハ刑事ト民事商事行政裁判トノ處分ニ共通スルモノニテ規定セリ

甲 偽證ヲ囑託シタル者ノ處分 是レ第二百二十五條ノ規定スル所ニシテ佛國刑法第三百六十五條所罰證人ヲ駕御スル罪即チ證人ヲ使喚シテ偽證ヲ爲サシメタル罪ニ相當ス而シテ佛國ニ於テ其始メ之ヲ規定シタルハ主トシテ被教唆者タル偽證者其人ヨリモ罪狀ノ惡ム可キモノアルカ故ニ被教唆者タル正犯ヨリ稍嚴重ニ處罰セント欲シタ

ルト從テシテ偽證罪ハ證人ト云フ身分ニ依テ構成ス可キ犯罪ナルカ故ニ要テ留メサランカ爲メトニ出テタルモノナルモ千八百三十二年刑法修正ノ際正犯ヨリモ重ク處罰スルノ必要ナシトノ意見多數ヲ占メ寔ニ普通ノ原則ニ依リ偽證者タル正犯ト同一ノ刑ヲ科スルコト、爲リ主テ理由ハ全ク消滅シ從タル理由ノミニ依テ存在シタリ我明文ノ彼ト其體裁ヲ同シウスルモ亦畢竟沿革ヲ重シシテ彼ヲ模倣シタルニ外ナラサルナリ

然レトモ本條ノ規定ハ之ヲ總則教唆ノ規定ト對照スルニ彼ニ在テハ單ニ人ヲ教唆シテ云々トアルモ此ニ在テハ賂賄其他ノ方法ヲ以テ云々トアリ其間果シテ異ナル所ナキヤ本問ニ付テハ三個ノ見解アル可シ

第一說 墓氏佛文案案總則一般ノ教唆犯ニ付テモ或特段ナル方法ヲ用ヒタルコトヲ要スルノミナラス理論上ヨリスルモ之有ルニ非スシハ教唆即チ他人ヲ使賄シタリト看ル可キ行爲アリト云フヲ得ス然ラハ明文總則ノ規定ニ於テハ單ニ教唆シ云々トアルモ畢竟手段ノ記載ヲ省略シタルニ過キスシテ其意本條ト同一ナルカ故ニ彼此區別アルコト無シ

第二說 佛文案案ノ規定ハ第一說ノ如シ然レトモ手段ナクシハ使賄アリト看ルヲ得ストハ非ナリ使賄ノ行爲アリヤ否ヤハ偏ニ事實ニ依ル可キノミ然ラハ明文總則ノ規定ニ於テ單ニ教唆シ云々トアルハ夫ノ佛國法カ手段ヲ限リタルノ缺點ヲ矯正シ從來ノ規定ニ一步ヲ進メタルモノニシテ單ニ手段ヲ省略シタルモノト云フヲ得ス然ラハ彼ト此トノ間大ニ異ルモノアリト

(一) 二說孰レヲ採用ス可キヤハ草案ニ依リ他ハ明文ニ依ルモノニシテ孰レモ有力ナリト雖モ若シ第一說ノ如ク立法者ニ於テ草案ニ依ルノ意ナリセハ兩者孰レニ於テモ手段ヲ記載スルカ若クハ全ク之ヲ省カサル可カラサルニ其彼此全ク規定ヲ異ニスルニ依テ之ヲ觀レハ寧ロ第二說ヲ採用ス可シ(二) 然ラハ若シ賂賄等故ラニ之ヲ強ユルノ手段ヲ用フルコト無ク單ニ依頼又ハ裏腹等ニ依リ偽證ヲ囑託シタルトキハ總則ニ依テ有罪トス可キヤ將々律ニ明文ナキ者トシテ無罪トス可キヤ曰タ本問ノ場合ニ於テ更ニ總則ヲ適用スルノ精神ナリセハ本條特ニ手段ヲ要スルコトヲ記載スルノ理由ナキガ故ニ無論無罪ト決定ス可シ(三) 然ラハ特段ナル手段ヲ用ヒタル場合ニ限リ之ヲ有罪トシ然ラサルモノハ

無罪トスルノ理由如何曰ク本條ノ場合ニ於テ單ニ偽證ヲ囑託スルハ人情ノ弱點ニ出ツルモノ深ク咎ムルヲ要セスト雖モ賄賂等特ニ人ヲシテ其要求ヲ容レシムルカ如キ手段ヲ用フルニ至テハ恕ス可カラサルモノアモハナリヤ  
之ヲ要スルニ本條ノ規定ハ本來單ニ沿革ヲ逐フテ總則ノ規定ヲ揭ケ以テ疑問ヲ杜絶セント欲スルニ在リシモ其間更ニ意ヲ用ヒ或教唆ヲ無罪トシ以テ總則ノ適用ヲ制限シタル特別ノ規定ト視ル可キモノナルカ故ニ總則ト特ニ異ナル點即チ手段ヲ要スル點ヲ除クノ外之ニ關スル總則ノ適用ハ皆總則教唆ノ原則ニ依ル可キモノト了解ニ便ナラシメンカ爲メ一ニ適用ヲ示セハ  
一明文ニアル如ク偽證セシメタルコトヲ要スルカ故ニ假令偽證ヲ教唆スルモ本犯カ偽證罪ヲ構成セサルトキハ本條ノ犯人モ亦罪ヲ構成セス其結果トシテ時効モ本犯カ偽證ヲ爲シタル時ヨリ始マル  
二例ヘハ爾若シ虛偽ノ陳述ヲ爲サレハ傍聽席ニ在テ爾ヲ銃殺セント云フカ如キ強制ヲ加ヘ依テ偽證ヲ爲サシメタルカ如キ偽證者ノ承諾ヲ阻却ス可キ場合ニ於テハ本犯ハ犯人ノ器械トシテ使用セラレタルモノナルカ故ニ本犯

ト本條ノ犯人トノ間ニ教唆被教唆ノ關係ナキノミナラス偽證罪ノ如キ身分ニ依テ構成ス可キ犯罪ハ身分アル人カ一身ニ附着スル責任又ハ義務ヲ破リタリト云フコト、其所爲トニ依テ成立スルモノ即チ身分アル者ヲ透シテ行ハルモノニシテ本問ノ如キ主犯罪ヲ犯スノ意思ナキ場合ニ於テハ客觀的ニモ罪ヲ構成スルコトナギカ故ニ本條ノ犯人ハ反對論アル可シト雖モ刑法第七十五條ニ依ルモ處斷セラル、コトナシ法ノ缺典トス  
三本條ハ特別ナル條件ニ於テ一種ノ教唆罪ヲ規定シタルモノニシテ獨立ナル犯罪ヲ規定シタルモノニ非サルカ故ニ本罪ヲ教唆シ又ハ補助シタル者ハ教唆ノ教唆犯アリトノ說ニ從ヒ本犯ノ犯人ト共ニ直接ニ主犯ニ對スル教唆者ナリトスルニ非スンハ本罪ノ教唆者トシテ處斷スルコトヲ得ス余ハ一般ノ學說ニ反シ教唆ノ教唆又ハ從犯ハソレ自身體様ヲ異ニスル一ノ教唆者ナリトノ說ヲ主張ス詳細ハ總則ノ說明ニ讓ルモ其要點ヲ示サハ教唆ハ犯罪ノ原動力ニシテ原動力ハ間接ト直接トヲ問ハサルト同時ニ此原動力ニ加効シタル者ハ主從ヲ問ハス一ノ教唆行為ヲ不可分ニ分擔シタルモノナルカ故ニ教

唆ノ行爲ニ關連スル者ハ皆一體ノ教唆者ナレハナリ從犯ノ教唆又ハ從犯ニ付テモ亦同筆法ニ依リ皆從犯タリ

乙 自首ニ關スル特別處分  
第二百二十六條ハ以上ノ場合ニ於ケル自首ニ關シ特別處分ヲ設ケタリ此恩典ヲ受タルカ爲メニハ二要件ヲ具備スルコトヲ要ス曰ク(一)裁判宣告前ナルコト(二)自首シタルコト是ナリ

第一ノ要素 裁判宣告ニ至ラサルコト (一)裁判トアルカ故ニ裁判ノ形式ニ依ラサル決定例ハ豫審ノ決定ノ如キハ此中ニ包含セス(二)裁判ニハ一審アリ控訴アリ上告アリ茲ニ所謂裁判トハ其孰レタルヲ問ハサルカ(イ)本條ニ相當スル第一佛文草案第二百五十八條ニ「虛偽ノ陳述ヲ爲シタル裁判所ニ對シ裁判所ノ確定判決前云々」有効ナル時期ニ於テ控訴又ハ上告裁判所ニ「トアリテ確定判決タルコトヲ明ニスル」ト(ロ)後ニモ説明スルカ如ク本條ハ可成允當ヲ未發ニ防止セントノ政策ニ出テタルモノニシテ確定判決前ニ於テハ未タ實害ヲ生ズルニ至ラス隨テ免刑ノ恩典ニ依テ其自首ヲ誘導スルノ

利益アルトニ依テ之ヲ觀レハ確定判決ヲ指スモノタルコト疑ヲ容レヌ故ニ假令裁判宣告ノ後ト雖モ其判決ノ未タ確定セザル間ニ自首シタル者ハ本條ノ特典ニ浴ス可キモノトス然レトモ確定判決タルコトヲ要スルノミニシテ刑ノ執行アリタルト否トハ之ヲ問ハサルカ故ニ裁判確定後ニ自首シタル者ハ未タ其執行ニ至ラサルモ本條ノ特典ニ浴スルコトヲ得ス

第二ノ要素 自首シタルコト 法律ハ單ニ自首シタルコトヲ要スルノミニシテ自首其モノニ關スル特別ヲ設ケサルカ故ニ總則第八十五條ノ規定ニ依リ進ンテ自己ノ罪狀ヲ訴追官廳人或ハ本條ノ草案ニ裁判所ノ前ニノ文字アリシヨリ豫審又ハ公判判事ニ罪狀ヲ首服スルモ亦自首ナリト信スルモ是レ認ナリ裁判所ハ訴追官廳檢事ヲ通シタル訴ニ非サレハ事件ヲ受理セス隨テ一私人ノ訴ハ必ス檢事ニ提出スルニ非サレハ無効ナルカ故ニ私人ノ訴ハ種タル自首モ亦檢事ニ之ヲ爲スニ非サレハ無効トス但檢事ノ手足タル司法警察ハ檢事ト同一ナリニ告白シテ自己ヲ處罰シ得ルノ地位ニ置タコトヲ要ス自首ノ特別ヲ設ケタルニ依テ害ヲ未發ニ防止セシカ爲メニシテ第二百



有トアリテ單ニ所有ノ事實ノミヲ謂フカ如キヲ知テ之ヲ所有スルニ非サレハ罪ヲ構成セス(三)定規ヲ増減シタル度量衡ノ何物タルヤニ付テハ二個ノ見解アリ單ニ偽造變造ノ度量衡トスルノ説ト已ニ廢棄ニ屬シタル舊度量衡ヲモ包含ストスルノ説是ナリ佛文第一草案第二百六十二條ニ偽造變造ノ度量衡ヲ所持スル者トアルト所謂定規ヲ増減スルハ偽造又ハ變造ノ義ニ外ナラサルトニ依テ之ヲ觀レハ偽造變造ノ度量衡ト云フコトヲ説明的ニ掲ケタル者ニシテ前説ヲ以テ至當トス(四)商買農工トアルカ故ニ商買農工ニ係ラサルトキハ本罪ヲ構成セス蓋シ之ヲ使用スルノ危險アリト推測セラレカ故ナラン(五)其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス是レ亦二様ノ見解アル可シ詐欺取財ヲ以テ論ストハ注意ノ法文ニ過キス隨テ此行爲アリタル時ハ第百條ニ依リ前項ノ罪ト數罪俱發ヲ以テ論ス可キトスルノ説ト偽造變造ノ度量衡ヲ所有スルハ詐欺取財當然ノ手段ナルカ故ニ詐欺取財ノ行爲アリタルトキハ所有ノ行爲其中ニ包含セラル可シトノ規定トスルノ説是ナリ前説ハ佛文草案第二百六十二條ニ但詐欺取財アリタルトキハ其

刑ヲ加フルコトヲ妨ケストアルニ相當スルカ故ニ根據ナキニ非スト雖モ之ニ從フトキハ法文ヲ無用ナラシムルノ結果ヲ生スルカ故ニ余ハ後説ヲ採用ス

第四 第二百三十條ハ人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造又ハ變造シタル者ノ處分ヲ規定ス(一)本條囑託シタル犯人ハ第二百二十九條ノ犯人者第二百二十七條ノ犯人カ將タ二者共ニ之ヲ含ムカ佛文第一草案第二百六十二條ノ規定ニ依レハ本條ハ第一項タル前條ニ對シ第二項トシテ附隨セシモノナルカ故ニ前條ニノミ專屬スト云フコトヲ得可キカ如シト雖モ草案ノ規定ト異ナリ明ニ獨立ノ法條トシテ規定セラルト同時ニ草案ニ於テハ商買農工等ヨリ囑託ヲ受ケ云々トアリタル明文ニ於テハ廣ク人ノ囑託トアリテ囑託者ノ何人タルコトヲ指定セサルニ依テ之ヲ觀レハ第三ノ見解ヲ採ル可キモ又トス(二)囑託シタル犯人ノ刑トハ如何ナルコトヲ意味スルヤ(イ)依頼者カ販賣ノ目的ヲ以テ偽造變造セシムル者ナリトキハ第二百三十七條ノ犯人ノ刑ニ照シ所有ノ目的ヲ以テ偽造變造セシムル者タルトキハ第二百二十九條ノ



犯人ノ利ニ照ス可キモノニシテ必スシモ偽造又ハ變造スル者ニ於テ依顧者ノ目的如何ヲ知ルコトヲ要セサルハ將タ犯人ニ於テ之ヲ知ルコトヲ要シ隨テ若シ販賣ノ目的ヲ以テスルモノナリト信シタルニ所有ノ目的ヲ以テスル者タリシトキ又ハ所有ノ目的ヲ以テスル者ナリト信シタルニ販賣ノ目的ヲ以テスルモノタリシトキハ第二百二十九條ノ犯人ノ利ニ照ス可キヤ余ハ簡單ニ第二說ヲ主張ス(但反對論トシテハ之ヲ偽造變造スルノ行為ハ夫レ自身第二百二十七條ノ罪若シハ第二百二十九條ノ罪ヲ發生セシム可キコトヲ豫想スルモノニシテ恰モ群衆ノ中ニ發砲スルカ如ク犯人ハ何レカノ罪ニ加効セントスル包括的ノ意思ヲ有スルモノナルカ故ニ實際加効シタル犯人ノ罪ニ加効スルノ意思アリト謂ハサル可カラスト主張スルコトヲ得(所有ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ヲ囑託シタル者力之ヲ使用シテ詐欺取財ヲ犯シタルトキハ單ニ第二百二十九條第一項ノ利ニ照シテ一等ヲ減ス可キヤ將タ第二項ノ利ニ照シテ一等ヲ減ス可キヤ本問詐欺取財ハ不正ノ度量衡所持當然ノ結果換言スレハ所持ハ詐欺取財自體ノ準備ニシテ所持ノ爲メ偽造變造スルノ

意思ハ當然詐欺取財ノ所爲ニ加効スルノ意思ナリト云フコトヲ得可キカ故ニ後段ニ決ス可キモノト信ス(亦有力ナル反對論アルコトヲ想像ス)尙ホ度量衡ニ關シテハ本節ノ外度量衡法第十五條ニ取締ニ關スル特別ノ規定アリ就テ參照ス可シ

### 第六節 身分ヲ詐稱スル罪

法律ハ第八節身分ヲ詐稱スル罪ノ題下ニ於テ二個ノ犯罪即チ(一)官署ニ對シテ屬籍身分ヲ詐稱スル罪(二)官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ借用シタル罪ヲ規定セリ二者共ニ之ヲ公ノ罪トスルハ一ハ官署ニ對シ他ハ官權ヲ侵害シテ行ハルカ故ナリ

#### 第一款 官署ニ對シテ屬籍身分ヲ詐稱スル罪

本罪ハ第二百三十一條ノ所定ニ係リ其構成要素ハ四アリ(一)官署ニ對スルコト(二)文書又ハ言語ヲ以テスルコト(三)詐稱スルコト(四)知テ之ヲ詐ルノ意思アルコト即チ是ナリ

第一ノ要素 官署ニ對スルコト (一)官署ニ對スルコトヲ要スルカ故ニ一私人



ニ對スルモノハ本罪ヲ構成セス然レトモ單ニ官署トアルカ故ニ行政官廳ト司法官廳ト將タ軍衙トヲ問ハス(二)官署トアルカ故ニ官吏ヲ含マサルカ如シト雖モ官吏ハ官署ノ機關ニシテ之ニ對スルハ官署ニ對スルモノナルカ故ニ當然罪ヲ構成ス

第二ノ要素 屬籍身分氏名年齢職業タルコト (一)屬トハ華土族平民等種屬ノ區別ヲ云ヒ籍トハ身之所依曰籍トアリテ士族籍平民籍兵籍本籍原籍寄留籍等凡テ人事上一身ノ歸屬スル所ヲ示スノ語ナリト雖モ茲ニハ屬ヲ分離スルカ故ニ本籍原籍寄留籍等住所ニ關スルモノヲ指ス(二)身分トハ戶主家族夫婦親子兄弟親族等人事上ノ地位ヲ云フ(三)氏ハ家ニ屬スル公ノ名稱姓ノ區分ニシテ名ハ一人ニ專屬スルノ名稱ナリ(四)年齢トハ生年月日若クハ出生ノ日ヨリ現今マテノ日數ニシテ(五)職業トハ之ニ依テ生活スル所ノ營業ヲ云フ右數個ノモノ皆自己ノ身上ニ關スルコトヲ要スルカ故ニ他人ノ身上ニ關スルモノハ假令父母後見人等幼者ノ爲メニ之ヲ云フノ義務アル者カ幼者ニ關シテ之ヲ詐ルモ罪ヲ構成セザラン亦法ノ缺典歟

### ●和佛法律學校校外生募集

司法部指定 和佛法律學校講義錄 第一回ハ豫定ノ如ク一年ヲ以テ第一回講義錄ヲ發行セントス元來此短日月ノ間ニ於テ初學者ハ依テ來二三月ヲ以テ第二回講義錄ヲ發行セシムルハキ編述ヲ爲シ以テ完全ノ終結ヲ爲サントハ勉學ニ適ヘク又法學者ノ溫習シ得セシムル等ハ決シテ他ニ其類ナカラズ今同ニ終結ヲ爲サントハ最モ困難ノ業ナリトス

第一部 民法民事訴訟法(附錄) 第二部 商法經濟學財政學 第三部 刑法刑事訴訟法 第四部 憲法行政法國際公法 第五部 現行租稅法 第六部 附屬法律

寮學監獄學等 講師 野田金井松崎一木寺尾 諸博士古賀鶴見龍掛下大審判官河村岡一圓●每月五十日發行●第一回講義錄ヲ一時ニ請求スル者ハ爲規則ニハ月謝金十錢全部金一冊金十錢郵稅一錢十部前金郵稅共金一圓

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地 (電話) 番町百七十四番

司法部指定 和佛法律學校校外生募集

●注意●

表紙第二面及ヒ第三面ニ緊急廣

告アリ必ス閲覽アルヘシ

●注意●

明治三十三年一月廿九日印尾六

明治三十三年一月三十日發行 行政官廳ト

ルカ如シ

編輯者 東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地 小田 幹治 郎

印刷者 東京市芝區四ノ久保町角十二番地 金子 鐵五 郎

印刷所 東京市芝區四ノ久保町角十二番地 金子 浩 版 所

發行所 司法省 和佛法律學校

所在 (東京市麹町區富士見町六丁目十六番地)

電話 (番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可